

刻翻  
『春城日誌』(二〇)

——『双魚堂起居注』大正二年一月～六月——

## 春城日誌研究会

年初三日に市島は、高田早苗が伊豆長岡に新たに設けた別荘を訪れ兩三日間滞在した。同じ時に高田に招かれていた学苑の幹事田中唯一郎や早稲田大学出版部の小久江成一等と会っていることを記している。学長で出版部長を兼ねていた高田のもとで、夫々の実務担当者を交え新しい年の事業について話し合われたと思われる。

前年夏に大正と改元されたが年末から続いている政局不安は一段と急を告げていた。藩閥政治への批判が澎湃として大衆の間に湧き上り、暮に成立した第三次桂太郎内閣は議會を開けないという事態に陥っていた。薩摩、長州による政權の私物化という政治手法を批判する憲政擁護運動が幅広い国民運動となっていた。桂首相は、自ら新党を結成し、政党政治の装いをしようと画策するが、憲政擁護派にとって茶番として映った。

政党政治、立憲政治を標榜してきた大隈重信への期待が広がっていったのも当然の帰結だった。

一月二六日に上野精養軒で校友大会が開かれた。学苑出身の代議士が多数出席と市島は記した。その会合で大隈が「学校三十年の薫陶の事実上漸く現はれ来りたること、并に桂公の政党組織を翻弄して、大名の野菜の畠にあるを見て即時馳走の用に立てよと云へる譬を取り、議會開会に先つ前一日政党組織を発表せるは近來の大発明、御客の既に来り居るに料理未だ成らざる也」と痛烈に批判したとある。

事態は二月に入り一層紛糾した。三日に学苑出身の議員が赤坂三河屋で集会を開き時局への対応を議している。一日には都内で焼き打ち事件が発生、桂擁護の立場にたつ新聞社が狙われたり、警視庁が襲われたりした。鎮圧のために軍隊が出動した。こうした末に桂は総辞職に追い込まれ、代って薩摩の山本権兵衛が組閣するが、相変らず藩閥持ち廻りの弊が続いた。

同日の記事に「昨今の政局に関して早稲田大学を誣へんとし浮説を立るものあり、之れに対して学校の措置に関し本日内議を為す」とあり、大隈と早稲田大学の動きに世間の目が注がれていることがわかる。この後、山本内閣は翌年シーメンス疑獄事件で倒れ、後継として大隈が第二次内閣を組閣するところとなっていくのである。

市島は、高田早苗に協力して早稲田大学出版部（副部長）を始めとし日清生命、日清印刷などの企業の重役として力を尽していた。この年日清生命が契約高を二千万円に乘せるなど順調な発展を続けている。六月二日にはその祝賀式があり発起人であった大隈に続いて市島も一場の演説を行った。これらの会社が順調な成長を続けていく中、株主でもあった彼らに相応の配当がなされている。

一方、二月二〇日未明に起きた神田の火災で三省堂、有斐閣、富山房など学苑や市島に縁のある書店に多くの被害があった。中でも早稲田大学出版部の製本を請負っていた松元鶴吉の製本所が全焼し出版部の七千冊が烏有に帰した。日本図書館協会は、市島等が起した文庫協会を発展させたものであり、日本の図書館近代化に大きな役割を果たした。市島自らも会長の要職を担った。この年一層の組織強化を画するために市島等は、紀州和歌山徳川家の当主頼倫を六月一五日に総裁に推戴した。紀州徳川家がその豊富な蔵書を以って「南葵文庫」を経営していた由縁によるものであった。

市島の文化的な方面での活躍が続くがその一つとして、洋画家川村清雄に大作を依頼した（二月三日）。川村の作品

は波濤と岩を描いたもので、後に恩賜記念館に架けられた。市島はこの絵を図書館の壁画「明暗」(横山大観、下村観山合作)と並ぶ学苑の誇る和洋の絵画と評したが、昭和二〇年の空襲で惜しくも川村の作品は失われた。

二月二五日に中国革命の父とされる孫逸仙(孫文)が大隈邸での歓迎会に出席、市島もその席に列した。

坪内逍遙が会長を務め、市島も運営に関わっていた文芸協会で逍遙が全幅の信頼を与えていた島村抱月と女優松井須磨子との恋愛事件が醜聞化した。市島はこれを「軟事件」と表現し、抱月の行為を批難した。日本演劇改革に大きな役割を果たした文芸協会は、この事件をきっかけに逍遙の会長辞任、六月末の「ヂューリアス・シーザー」の公演をもって解散することになる。

また二月に学苑経理担当者の不正が発覚、対応に苦慮する。学苑創立三〇周年記念事業の実務責任者である市島は、そうした諸問題への対応など、多忙が活力の素でもあったが、病には勝てず四月にリュウマチを患い病臥の日々を送った。

家庭的な事では、三月二九日に二女久(医師・杉山茂吉妻)が男児を出産し、春雄と名付られた。そうした慶事の方、妻ユキの甥で長い間療養中であった和泉信平が三月七日に、母シゲの弟丹呉俊平が同月八日に死去した。

前年から普請に取りかかっていた落合の別荘が漸くこの五月に落成した。寸暇を得ては訪れて大工に指示を与えたり、庭木の選定にも心を配ったりして来たものであった。

二〇〇二・九・三〇 金子記

春城日誌研究会(金子宏二、酒井清、松井叶子、渡部輝子)

## 雙魚堂起居注

大正二年一月以降

(方陽)  
丑癸

一月

元旦

晴。毎年の如し。流石ニ諒闇中と云ふ辞柄のもとに賀客の来るも幾んどなく、賀状の来るも寥々たり。自分は年賀ニ出てさるか近年の例なれど人の来るは敢て妨けさるに、さて誰れも来ぬのには幾んど退屈を覚ゆるほど也。

十時頃家」(二二六)を出てそろに市中を歩く。寂寞として如何にも不景氣の光景也。高木方ニ立寄り去年蒔絵師ニあつらひたるものの出来たるを請取、去つて湖畔ニ抵り毎年々首の如く杯を挙げ兒女の為ニ、三の物を購ふてかへる。

二日

晴。高橋義彦より来書あり。旧臘托し置ける五十公野ニ宅地を」(二二六)購入之件ニ付詳細申来る。十時頃より見

女同伴、散策かた／＼落合村ニ至り半成の居宅を検し、帰途四谷ニ飯す。

三日

晴。大石理円、菊屋来る。十時結束、高田半峰の別荘を訪はんとて新橋ニ到る。発車時間まで尚一時間以上を余ますニ付、出て物を購ひ樓上ニ飯し、絵はかきなど認め、十二時二十五分の急行汽車にて発」(二七〇)す。偶々藤沢利喜太郎の神奈川ニ赴クニ会し暫時話す。車中他ニ知人なく、黙々新潟学校時代の旧夢談を新潟新聞ニ掲載せんとするニ付其の材料しらべをなし、思い出るまゝ手帖ニ書きつけ時間を費す。四時十分、三島駅ニ下車、伊豆鉄道ニ乗り移り南条停車場より更らに下車、飢車を僦ふて二十町長岡ニ到り高田方ニ着す。此の別荘兩三年前、半峰、久保扶桑の参謀にて建」(二七〇)築する所、余の来り觀るは初めて也。偶々田中唯一郎、小久江成一來泊中、一浴晚餐を共にし、深更迄語り此家ニ宿す。通宵睡眠を得す。

#### 四日

晴。長岡滞在。朝食後近傍の久保扶桑を訪ふて、新潟学校時代の事ニ付種々質問し、扶桑の旧夢談を聞き且つ其の珍藏書画数幅を展観、半日を消して高田方へ帰へる。小久江、正午」(二八才) 先づ帰京の途ニ就く。午後より高田案内にて久保、田中等と近傍を散策し、石棺を観、天野遠景の墓を展し、狩野川の勝を訪ね、薄暮歸へり一浴一醉。偶々坪谷水哉尋ね来る。皆々、久保方ニ招かれ行き、雑談ニ時を移し、十時高田方へ歸へり臥す。此地温暖、東京三月頃の氣候也。

#### 五日

「(二八九)

晴。早朝坪谷水哉、高田別荘へ来り一同を撮影す。今日は江川担庵の故居を訪ふて、東京ニ歸へらんことを欲し、高田、久保ニ同行、江川を訪はんことを勧む。水哉、田中又同行を欲す。乗合馬車を僦ふて同乗、十時葦山ニ着江川を訪ふ。女婿山田三良来泊中なれとも外に出て、在らず。主人英武迎へて応接し、酒餅の饗を受け、蔵品を觀、庭園を觀、練武場を觀、辞して担庵の墓を拜し、又

馬車ニ」(二九才) 同乗、北条駅ニ到り久保ニ別れて三島駅ニ到り、東海道線ニ乗り移らんとする際、急行の汽車は恰かも同時ニ発し一行失望甚し。二十余分待合はせ田中、坪谷と共に同乗、半峰は別れて田子の浦ニ赴く。車中坂本嘉治馬ニ会す。初め国府津ニ大隈伯を訪ふ予定なりしも、急行汽車ニ乗り外したる為果さず直ちに帰京、夜に入り帰宅す。」(二九才)

#### 六日

晴。高橋義彦ニ托したる五十公野土地の件ニ付、今朝電信を發す。不在中の家務を理す。電話料十六円五十錢払済。末女を伴ふて浅草辺ニ遊び、活動写真を觀、晩間帰宅。夜に入り中村芳雄来る。旧臘日高秩父ニ揮毫を托したる継志園記漸く成る。芳雄はこれを持参せる也。

#### 七日

「(三〇才)

晴。広田来る。携帶書画思はしきものなし。文明協会の森脇美樹来る。近日旅行之見聞記を筆して午時ニ到る。午後より高木平山堂を訪ふて歸へる。不在中、野口多内妻来る。高橋義彦より来書あり。文明協会第三回配本あ

り。

## 八日

晴。高橋義彦ニ郵書を発す。宗家へ「(88) 日下秩父揮毫の園碑原」(三〇ウ) 稿を郵送す、書状添付。校友難波理一郎来訪。吉田半迂又来る。種村、小久江来訪ニ付、出版部事務上之事を協議し、去つて湖畔ニ英堂を見る。帰路琳琅閣ニ立寄、陸心源の遺書若干を購ふてかへる。外出中、野口多内来訪。実業日本社、来る十二日をトし紅葉館に同紋会を催さんとし、余にも出席の照会来る。」(三二オ)

## 九日

晴。広田来る。廿一代集のカラダンスを示す。高価のものなから手紙入の用にとて購ふ。辻川武之進、鑑賞会の件ニ付五十嵐敬止の書状を持参。土屋詮教、関屋親次来話。田原栄来訪、物を贈らる。琳琅閣より昨日購入之図書持参、十三円五十錢払済。

## 十日

晴。吉田半迂来る。其携帯之水」(三二ウ) 晶印二顆購入。石沢兵吾、竹村五百枝之書ニ接す。内子と出遊、神田辺

ニ物を買ひ、北浜銀行支店ニ今西林三郎より之小切手請取。両国鳥安ニ午飯を共にし、帰路高木を訪ふて古色紙帖、東大寺釘を買ふてかへる。真島桂次郎より寒氣見舞状来る。山田一郎の油絵出来、余の検閲をもとめ来る。近日門生の故人紀念之為め作る処也。」(三三オ)

## 十一日

晴。真島桂次郎、石沢、竹村五百枝、大工佐藤へ書状を發す。井口誠一、アルバム意匠其他之件ニ付来る。吉田半迂、三条公夫人の印を刻し来りて示さる。小林堅三、館務其他ニ付来る。高木方へ使を遣す。登校事務を見る。難波理一郎来話。坪谷水哉より過日長岡ニ於て高田の家族と撮影の写真を贈り来る。中学商業講義録之編輯会ニ臨む。台湾の重栖健より」(三二ウ) 来書あり。夕刻、神楽坂常盤亭ニ出版部員の新年宴会を開く。高橋義彦より来書あり。

## 十二日

日曜。晴。広田、菊屋来る。菊屋より信楽水指を購ふ。鳩居堂林卯兵衛の計ニ接す。田中穂積より来書あり。午

後、高木を訪ふて赤絵の茶入を購ひ、実業日本社主催の同紋会（紅葉館）ニ出席。吉田東伍、三輪田元道等」三三と紋ニ関する一場の演説を為す。今回の紋は余の家紋を主題とせり。来会者五十名。

#### 十三日

晴。種村宗八来る。日野正信、田中穂積の紹介にて来る。紫安依頼ニ付、大坂の引船会社の支配人ニ擬せんとて先づ接見す。新潟新聞通信記者国田来る。新潟学校時代の旧夢談と題する談話を連載せんと思ひ立ち、」（三三ウ）本日は三、四日分談話し筆録せしむ。午後、倦むて三省堂を訪ひ、更らに高木を訪ひ、書画一、二を購ふて帰へる。大工吉五郎来る。落合宅床脇の模様替并ニ物置設置の事を談す。

#### 十四日

晴。菊屋来り書画を示す。国田江東来り前日ニ引つ、き旧夢談を筆記す。未完からず。斎藤精輔来り三省堂整理の行悩を」（三四オ）報告して去る。午後、坂口五峰を旅宿ニ訪ふて同伴、国技館ニ相撲を見る。印刷会社の社員も

来り会す。散して後皆々と大又ニ飲み酣醉家ニかへる。石沢兵吾より一身上ニ関する細書来る。

#### 十五日

晴。広田、椿山牡丹の幅を持参。内田貢を訪ふて多時話す。登校事務を見る。出版部員と倒叙」（三四ウ）国史出版の件ニ付協議す。増田義一、竹村良貞、紫安新九郎ニ書を発す。日高秩父へ揮毫料二十五円贈る。中村芳雄ニ奔走料五円遣す。平山堂を訪ふて古賀侗庵幅外数点代金十六円払済。二、三の幅を借り受けてかへる。

#### 十六日

晴。種村来る。菊屋、広田交々書画を携へ来る。午後登校。高木正」（三五オ）年来訪。図書館の事務会議を開く。在米朝河貫一より来書あり。大鳥井弁三長子死去之報を得。香典を遣る。杉山茂吉来る。内田貢より来書あり。吉田半迁来訪。

#### 十七日

雨。山本利喜雄、記念録編纂の件ニ付来話。半迁ニ囑したる壬子の印奏刀。国田江東ニ新潟学校時代旧夢談を話

して筆録」(三五ウ)せしむ。但し未だ完からず、正午、英堂ニ会す。琳琅閣ニ雑書を購ふてかへる。宗家主人より来書あり。新潟今湊良源より来書あり。帝国通信社竹村良貞より、前日来余ニ同社之取締役たらんことの請求あり、再三辞退したれど強て請求あり。友誼上已むなく一時の約束にて本日承諾す。増田義一より来書あり。

#### 十八日

「(三六ウ)

晴。高橋義彦より来状あり近作銅印を示さる。熊本の人中村楯雄、亡祖父手写の遺本三百冊早稲田の文庫ニ寄付の件ニ付、犬養木堂之添書を齎らし来り見る。山田穀城、山田清作ニ書状を発す。午後、田代亮介来る。書画を同観して半日を消す。小林を招き事を托す。高橋義彦より小包にて近鑄の銅印を贈らる。内子を野口多内方へ遣す。夜来降雪あり。」(三六ウ)

#### 十九日 日曜

雪晴。富田精策の訃到る。広田金松、竹村良貞、山田清作来る。国田江東ニ新潟学校時代の旧夢談を筆記せしめ完結す。在伯林、寺尾元彦より来書あり。正午、児を伴

ふて神田辺ニ物を購ひ、高木方ニ立寄り宝亭ニ飯して帰へる。外出中、佐伯叔作来訪。富田精策相続人要へ香典入悔状を発。内田貢ニ書を投す。高橋義彦ニ銅印の札を申遣す。」(三七ウ)

#### 二十日

晴。北京ニ赴きたる桑田豊蔵より来書あり。帝国通信社より二十四日湖月ニ重役会を開くの通知あり。重役竹村良貞、朝倉菊衛、小坂駒三郎、細井直次、頼母木桂吉、池田寅次郎及余、監查役鈴木梅四郎、星野錫、赤堀又次郎。小久江成一来話。午後より登校、事務を見る。丁酉銀行(八百円、増田裏書分)手形切り替期限三月廿日也。貯蔵銀行手形二枚(千二百円、田中裏書。千」(三七ウ)円、岡本裏書)切替共ニ期限三月二十日也。内田貢ニ囑したる吉田東伍倒叙国史のプロスベクタス案出来。夜に入り郵便にて着す。

#### 二十一日

晴。菊屋、半迂、日野正信、川上淳一郎交々来訪。午後、種村を招き出版部の事務を処す。新潟栗林より仏事の菓



子を贈らる。独立評論の内山省三より広告之件ニ付来書あり。稲葉岩吉より来」(三八) 書あり。遼東志覆刻本を贈らる。内田貢ニ書状を発す。議會開院劈頭停会の詔勅下る。晩間、大江乙亥門実業日本社之雑誌ニ余の紋章ニ関する過般の談話を載するニ付、校訂を乞ふ為に來る。栗林へ書状を發す。

## 二十二日

昨夜来の大雨やまず。広田來る。紫安新九郎來訪。「まなかつほ」味噌漬壺樽を贈らる。風雨中琳琅閣を」(三八) 訪ふて雜書を購ふ。英堂と会し、晩間、野田屋を訪ふて一、二の物を購ひ夜に入り帰宅。

## 二十三日

晴。畑正吉、赤堀又次郎、種村宗八、神樂江卷石交々來る。印刷会社の重役会ニ臨み、午後より登校、坪内と会し文芸協会の事、島村と松井須磨の間に起れる軼事件ニ関して協議す。又、出版部の事を協定し、薄暮帰宅。」(三九)

## 二十四日

晴、風。広田來る。山名貫義の幅を購ふ。出版部事務上之件ニ付、種村、小久江來る。関屋、文芸協会會計報告の為、三省堂斎藤精輔、百科の件ニ付來訪。松本胤恭も來る。午後、新潟県国民党代議士ニ招かれ、下谷伊予紋ニ到る。昨新政局ニ就き種々の談あり。新潟県は増田義一を外にして新政党ニ投せんとする意向也。余よりも多少論する所あり。晩間、辞して烏森湖月樓ニ至る。」(三九) 帝國通信社第一回の重役会を此処に開らきたる也。

## 二十五日

晴。種村、出版部の件ニ付來訪。昨今の時局ニ関し新潟国民党坂口五峰、川上淳一郎、川合直治來訪。種々論議の末午餐を共にし、一同登校、学長と会して伯の此際ニ於ける意見を叩き、坂口等伯邸へ赴く。学校の此際世評ニ対する件并ニ明日の校友会ニ伯、時局」(四〇) ニ関する校友の心得となるべき演説を請ふ件等ニ付内議す。日野正信ニ書を投ず。又、増田義一ニ書を發す。山崎恒四郎より身上ニ関する書状來る。

二十六日 日曜

風。菊屋、団子坂河野来る。獲る所なし。内田貢より來書あり。桜井孝治來り物を贈らる。午後、高木を訪ひ、

英堂と湖上ニ会して、精養軒ニ開会之校友大会ニ出席す。時局ニ関し<sup>(四〇ウ)</sup>各地の校友出身代議士多く出京の折柄、会衆三百之多数ニ達し、伯は時局ニ関し学校三十年の薰陶之事実上漸く現はれ來りたること、并ニ桂公之政党組織を翻弄して、大名の野菜の畠ニあるを見て、即時馳走之用ニ立てよと云へる譬を取り、議會開会ニ先づ前一日政党組織を發表せるは近來の大發明、御客の既ニ來り居るに、料理未だ成らざる也と揶揄<sup>マユ</sup>し、自家の立場を声明して世間の<sup>(四一オ)</sup>疑惑を解かれたり。兼而は伯の時局ニ関する態度を聞かんといきまき來れる校友中の若輩も、此の演説ニより口を噤み大喝采の間に会を閉ちたり。

二十七日

晴。三省堂の斎藤來り整理に先たち百科字典を続刊するの件ニ付來訪あり、凝議の後去る。河東田經清の書ニ接

す。午後より登校、事務を見る。河東田ニ答書を發す。」

<sup>(四一ウ)</sup>又、新潟今湊良源ニ書を發す。

二十八日

晴。田代亮介、大石理円来る。十時より出版部幹部、高田方ニ会し事務改革相談の末、時機を見て營業主任を更任する件を決す。又、倒叙国史を博文館と提携して、予約出版を為す事を協議す。久名義の五百円貯金証書を出版部へ差入正金借入る。稲葉岩吉ニ書を投す。晩間兎と共に<sup>(四二オ)</sup>谷ニ到り平山堂を訪ひ、三河屋ニ飯して歸へる。

廿九日

曇。博文館との交渉の件ニ付種村、小久江來訪。森山本一より物を贈らる。昆田來訪。午後より登校、事を見る。午後より降雨あり。高木を訪ふて若干の払をなし、墨斗一を獲てかへる。」<sup>(四二ウ)</sup>

三十日

晴、風。校友斎藤正義、恩賜館内の扁額油絵の件ニ付來訪あり。学長宅ニ出版部幹部員会合、營業上之重要事件

を協議す。正午、同仁会ニ招かれ新潟県国民党議員と共に行く。伯より刻下の政局ニ関する談を聞く、富山房より余の談話を雑誌ニ載せたるニ付、謝金を贈らる。星野博士帝大ニ就職廿五年祝賀会を催すニ付、余に發起人たれとの」(四三才) 照会来り直ニ承諾を表し遣る。新潟斎藤庫造より鱒巻尾を贈らる。内田貢より来書あり。吉田半迂来る。

### 三十一日

晴。校友森山本一、図書館へ入るの件ニ付来訪。大工佐藤吉五郎来る。建築費の内式百五十円相渡す。菊屋来る香盆代払。坂口五峰来訪、時局ニ対し去就問題ニ付長時間協議して去る。五峰より」(四三才) 鮭の飯ずしを贈らる。正午、家を出て高木方ニ立寄り、湖畔ニ英堂と午餐を共にし、野田屋へ立寄。夕刻、紅葉館ニ至り伊藤正、近日名古屋ニ赴くニ付送別の宴を催す。江部淳夫、広島発書状来る。」(四四才)

## 二月

### 一日

晴、風。午前来客なく、半日双魚堂日載を筆す。内田貢、斎藤庫造ニ書を投ず。午後、登校事務を見る。莊田平五郎、課外講義ニ来る。夕刻より児女を伴ふて有楽座ニ文芸協会の劇を観る。松本胤恭の書到る。直ニ答ふ。

### 二日 日曜

晴。浮田和民、松本胤恭、田代亮」(四四才) 介より来書あり。高田を訪ふて半日話す。島村抱月一身上の問題ニ付多時協議の末、去つて坪内逍遙を訪ふて島村と協会間の問題ニ付種々凝議。略々余の意見を容れたるに付、夕刻帰宅。外出中、会津八一、伊藤正治、斎藤正義来訪。

### 三日

晴。斎藤正義、恩賜館油絵を川村清雄ニ揮毫せしむる件ニ付来訪。」(四五才) 広田来る。校友棒亦七来り、余の政治上之談話を請ふ。一、二時間話しかへす。山崎恒四郎より来書あり。内藤久寛出京、トラバ蟹を贈らる。登校

事務を見る。高田と共に島村抱月を招き、坪内ニ対し謝罪之事を協議す。平山堂ニ立寄り近衛忠房卿の大政奉還ニ反対之長簡ニ通、遠州好机老脚を購ふ。今夜、赤坂三河屋ニ早稲田出身の貴衆両院議員の集会あり、出席。各派皆な会す。時局場切迫の折柄此<sup>(四五)</sup>の会合は一種之興味あり。余の如きは八面ニ当り、自由ニ論評して自己も興を覚へ、人にも興を与へ、近年なき愉快を感じて帰宅す。

#### 四日

晴。山田清作来る。午前中在宅、日載ニ雑事を筆録して正午ニ至る。午後登校、文明協會の編輯会ニ臨み、次年度の図書ニ付協議す。又、大学教旨之委員会ニ臨む。内藤久寛ニ書を与ふ。会津八一より来書あり。<sup>(四六)</sup>直ニ答ふ。島村抱月の件ニ付坪内と学校ニ於て内話してかへる。表具屋ニ書簡三卷表装を托す。宮城県知事より図書館開館式案内状来る。桑田春風ニ簡し忠房の書簡ニ付云々す。

#### 五日

曇。田代亮介ニ簡す。広田来る。書画一、二購ふ。平山堂を訪ふて忠房書簡外、机一代金三十二円品物と正金とを以つて払済。更らに若沖<sup>(四六)</sup>の幅、福沢翁書簡を借り受け、三河屋ニ飯して登校、事務を見る。今夜、両国福井楼ニ観山会を開らく。下村観山ニ揮毫せしむる為、去年結びたる会合也。今日停会後の議會開会。解散と一般二期されたる議會、又停会となる。石沢兵吾より来書あり。

#### 六日

雨。表具屋来る。二、三の繕ろいを托す。星野翁来訪、帝大就職<sup>(四七)</sup>二十五年祝賀会の件ニ付長時間談話の後去る。正午、湖上ニ英堂と会す。高木方へ立寄、帰宅。坂口より郷味たらば蟹を贈らる。

#### 七日

今晚大雨あり、天明霽る。広田来る。岸駒鹿の幅を購ふ。校友八木淳一郎、油絵を携へ来り示さる。在米佐藤享作より消息来る。紫安新九郎来訪、長時間話して去る。午

後、登校事務を見る。匹田鋭吉、「四七」富山県より出京来訪。島村抱月より一身上ニ関する内話あり。

#### 八日

晴。広田来る。岸駒鹿之幅を購ふ。半迂来話。日清印刷会社の重役会ニ臨む。山沢より竹谷画、岸本由豆流、詩仏賛の筑波山幅を購ふ。登校事務を見る。高田、坪内と抱月身上之事を密議す。四時より矢来倶楽部ニ中学商業講義の編輯員と会「四八」し、次年度発展策を協議す。

#### 九日

晴。日曜日。朝来外出、高木方を訪ふて物を購ひ、表具屋ニ書簡三卷托し、英堂と都鳥ニ会し、午後、玉泉堂ニ筆を購ひ、平山堂を訪ふて斧痕ある木地の大文庫を購ひ、若干之払をなして帰宅。

#### 十日

「四八」

晴。広田、山田清作、原田駒之助、万千野定之助、江口誠一、交々来訪。午後、登校事務を見る。関屋親治、文芸協会の件ニ付来話。昨今の政局ニ関し早稲田大学を誣へんとし、浮説を立るものあり。之れに對し学校の措置

ニ関し本日内議を為す。出版部員を会し講義録拡張の事務之協議をなし、半日を消す。議會、又々三日間停会の命を受く。桂内閣ニ對する公憤勃發、各所焼打行はれ、満「四九」都修羅場となる。桂党ニ味方せる諸新聞社、襲撃を受け、警視庁、又襲撃を蒙る。終に軍隊の出勤を見るに至る。桂内閣終ニ総辭職を為すの号外出づ。

#### 十一日 紀元節

晴。朝寒を冒し兒女を伴ふて、落合村の普請を検分す。炉の切り方、雨戸袋の付方等を指図し、午後一時、四谷三河屋ニ飯す。兒女を宅へかへし、平山「四九」堂を訪ふ、獲る所なし。昨日ニ引続き市中尚不穩と伝ふ。到る処、桂閣自殺の批評紛々たり。

#### 十二日

晴。広田来り、木米大香炉を齎らし示す。慶喜公短冊の幅を購ふ。広井一出京、加賀幸三と同伴来訪。政局ニ付多時談話して去る。大鳥井弁三来話。登校事務を見る。内田貢ニ書状を發す。大勢国史挿絵の組合をなし「五〇」印刷所へ廻はす。

十三日

晴。早朝内藤久寛来訪、物を贈らる。半迂を招き木米香  
炉を模写せしむ。菊屋来り畢山之紛<sup>（末次）</sup>、李白之幅、果亭觀  
音幅を示す。日清生命保険より株主總會之通知書来る。  
内田貢より来書あり。午後、登校事務を見る。内田貢、  
原田駒之助ニ書を発す。桂湖村と話す。」（五〇ウ）

十四日

晴。山田清作、小崎恭人来る。登校事を処す。野口妻来  
り、物を贈らる。高木を訪ふて唐筆を購ふ。玉川堂ニ繪  
半切を購ふてかへる。有賀長雄ニ簡す。

十五日

朝、小雨。小久江、種村、土屋等来る。大工吉五郎来る。  
午時、英堂と会す。登校事務を処す。十八日文芸協会幹  
事会通知書到る。」（五一オ）

十六日

晴。日曜。広田来る。青々<sup>（實々）</sup>其一の幅一購ひ、岸駒幅かへ  
す。女を伴ふて上野、浅草辺ニ散策し、夜に入り帰へる。  
不在中、稻生長庵妻来り物を贈らる。森山本一來訪。坂

口より出京を報し来る。

十七日

晴。大江乙亥門、本田信教、森山本一來訪。内田貢より  
倒叙国史広告案来る。斎藤精輔、三省堂其<sup>（五二ウ）</sup>後の  
経過ニ付報告之為来る。種村来訪。午後、登校事務を見  
る。内田貢ニ書を投ず。高木を訪ふ、得る所なし。四時  
より上野精養軒ニ行く。吉田の倒叙日本史披露之為都下  
の新聞、雜誌記者、二十数名を招き余と著者より披露の  
談を為し、会食後散す。山田清作より来書あり。

十八日

晴。夜に入り雨。菊屋、広田、種村来<sup>（五二オ）</sup>る。田代、  
坂口五峰、野口多内来訪。坂口と午餐を与にす。午後、  
坂口同伴、鍔金家香川勝広を下谷桜木町ニ訪ひ、其の作  
品を見、遂ニ相伴ふて、上野伊予紋ニ飲み、深更帰宅。

十九日

雨。校友佐藤元郎、人の依頼を受けたりとて曾つて見た  
る馬琴の自筆禽鏡を買はぬかとて来り見る。断はりてか  
へす。関屋親次、昨夜<sup>（五二ウ）</sup>文芸協会幹事会之決定を

齋らし来り報告す。且つ有楽座の成績を報して去る。登校事務を見る。湖畔ニ英堂と会す。内藤久寛より来書あり。晩間烈風。夜に入り安田勲、藤本慶祐来訪、面会を断る。夜間接見せさるか余の近來の家法也。

## 二十日

晴。昨夜烈風中、神田ニ大火起り天明（五三オ）ニ至るも尚消へず。神保町大半焼き払らひ外国語学校、今川小路辺ニまで及び、知人の類焼するもの多し。今朝之新聞紙は政友会降伏を伝ふ。朝来赤堀、江口誠一、加賀幸三、梅沢和軒交々来訪あり。午後より登校事務を見る。火事場を検分す。三省堂標本部、有斐閣、富山房等相識りの書肆、多く灰燼。出版部関係の製本所、又焼失。製本を依頼しありし七千冊の書籍、又烏有ニ帰（五三ウ）す。倒叙国史之件ニ付、新潟新聞の山田穀城ニ書を投す。新聞紙報す。神田区の焼失家屋四千戸。杉山茂吉来る。

## 二十一日

晴。内田魯庵より倒叙日本史広告、第二、第三案到達。広田来る。其一画幅代渡済。平山堂より石川丈山短冊の

幅取寄せ見る。山田奠南の計到る。斎藤正義、河村清雄（五五）山水の額面を持参、見す。価百二十（五四オ）円にて買入之事ニ決す。表具屋より書簡卷六持参。安田勲、画幅を携へ来り鑑定を乞ふて去る。笠原又一、越後より来り物を贈らる。終日家居、双魚堂日載に閑文字を弄して夜に入る。喜代四来る。夜来雨あり。

## 廿二日

雨霽。藤本慶祐来訪。踵て小久江成一来訪、神田大火之為、会社関係之書肆多く焼失ニ付云々之相談を受く。（五四）川村清雄油絵の件ニ付、斎藤正義より来書あり。登校事務を見る。河東田経清、伊藤正の書ニ接す。香川勝広より来書あり。斎藤正義ニ書を投す。又、香川ニ返書を発す。又、内田貢ニ書を投す。

## 廿三日

昨夜覆盆の大雨あり、今朝霽る。蘭亭脩禊紀念会開催ニ付余を発起人となれと勧誘状来る。斎藤正義来る。川村清雄、柳蔭山水の（五五オ）額面代百円相渡す。鵜田良之輔来訪。午後、築地本願寺ニ到り山田奠南の葬式ニ臨む。

内田貢より来書あり。晩間、加藤万作夫婦、笠原又一来る。夜来烈風あり。昨日来不時の暖氣一変、寒氣甚し。

#### 廿四日

風。広田、赤堀、半迂、小久江来訪。午後、登校事務を処す。日清生命保険より高須某を遣し、其の発（五五ウ）行ニ係る雑誌ニ談話を求む。明後日を約してかへす。四時より富士見軒ニ文明協会評議員会を開く。松井、和田垣、天野、石川、浮田、関一等你来会、次年度出版書を協議して散会す。在大阪関屋親次より来書あり。

#### 廿五日

雪チラ／＼降る。松本忠治ニ簡す。斎藤正義より望月省三筆水彩画壹面を贈らる。井口誠一來る。（五六オ）加賀幸三来る。北越新報之為双魚堂閑語の談話を筆録せしむ。午後登校、二時より大隈邸ニ孫逸仙の歓迎会を開く。孫の外、支那公使并胡瑛など来る。来会者は早稲田諸員、洪沢、中野、同仁会幹部等七、八十名、伯の歓迎演説、孫の謝辞あり。有賀、近日清国憲法顧問として出発ニ付、今夜同人十数名、有賀を赤坂三河屋ニ招飲、余も臨席す。

今夜降雪あり。（五六ウ）

#### 廿六日

今朝雪霽る。日清生命保険会社発刊の家庭雑誌ニ、簡易生活と云ふ題にて談話を筆記せしむ。本田信教来る。赤堀ニ簡す。開国大勢史の挿画を投す。支那民国公使館より明日、有賀と共に招待を受く。登校事務を見る。

#### 廿七日

晴。神田の大火ニ類焼ニかゝり、出版部の図書七千を焼きたる製本屋松（五七オ）元鶴吉来り善後の事を云々す。広田来り寛斎太湖石の幅を見めす。（五七ウ）真島より白魚を贈らる。日清生命保険より配当金を贈り来る。山本利喜雄、学校三十年記念録の原稿を携へ来り示す。川崎銀行ニ保険会社の配当金受取。永田町の民国公使館ニ赴く。有賀、民国へ赴くに付、招伴として招かる。大隈伯、高田、塩沢、信常、田中（唯）、埴原等来る。午後三時、辞して去る。英堂ニ会し、夜に入り帰宅。（五七ウ）

#### 廿八日

晴。今朝有賀、支那へ出発、睡過きて見送る能はず。広



田より森寛齋太湖石の幅を購ふ。菊屋ニ果亭幅代払。小久江成一来話。来月五日洪沢邸ニ観山会を開く通知来る。登校事務を見る。古賀茶溪の幅出来、表具屋より到来。南米博覧会より招待状来る。明後日大学山の上御殿集会所ニ於て、星野博士祝賀の委員会開会通知来る。森」<sup>五八</sup>ハオ 寛齋幅表装を托す。杉山茂吉来る。在大阪小川為次郎より、谷鉄心旧蔵千字の模版を作りたるニ付、壹部贈る旨来書あり。小林銀治過日の神田火災類焼ニ付、見舞金遣す。表具屋勘定の内金十円相渡す。真島桂次郎へ謝状を発す。」<sup>(五八九)</sup>

### 三月

#### 一日

晴。高木順来訪。書画を示す。本田信教来話。高橋邦三の計ニ接す。小川より、二休千字文模本を贈らる。直ニ礼状を発す。午後、登校維持委員会ニ列す。出版部の事務を見、薄暮帰宅。

#### 二日

日曜。晴、風。早朝、製本屋松元来る。損害賠償の件を談判」<sup>(五九)</sup>し、決する所あり。団子坂道具屋来る。星野翁より来書あり。高橋邦三宅を訪ふて、其死を吊ふ。香典二円遣す。上野美術協会ニ開会中の南米博覧会の陳列を見、湖畔ニ飯し、午後より帝国大学内山ノ上ニ星野博士祝賀実行委員会ニ出席。服部宇之吉、岡田正之、黒木安雄等と、博士文稿紀念出版の件を協議して散会す。真島六郎来り物を贈らる。琳琅」<sup>(五九)</sup>閣ニ若干の払を為し、雑書二百十七冊を購ふ。図書館備付用也。昨日より例年の如く雛飾を為す。

#### 三日

晴。広田来る。又、野口多内来る。二、三の書を学校へ遣し、事を処す。午後、星野翁を訪ふて、長時間ニ涉り帝大祝賀会ニ付、文稿出版之事、其他を協議す。一月中慶事ありたるニ付、遅行ながら祝儀物を贈る。」<sup>(六〇)</sup>湖畔ニ英堂と会して、夜に入り帰宅。

#### 四日

晴。関屋親次、辻川武之進、増子喜一郎来話。加賀幸三ニ双魚堂閑語の材料を筆記せしむ。種村、出版部の決算を齎らし来る。午後、登校事務を見る。服部宇之吉ニ書を投じて、星野博士の事を云々す。新村出より来書あり。理工科講師森河健介、近日洋行ニ付、下谷伊（六〇ウ）予紋ニ招飲。余も出席す。

#### 五日

晴。小林堅三、吉田半迂、山田清作、伊東台助、菊屋交々来る。午後、登校事務を見る。関屋親次、文芸協会の件ニ付来る。四時より王子の渋沢別邸ニ到る。こゝに観山会を開く。晚餐の饗を受け、十時辞して去る。

#### 六日

（六ハオ）

晴。星野翁文稿出版の件ニ付、長文の書簡を郷里宇尾野藤八ニ発す。大工吉五郎来る。石塚三郎出京、物を贈らる。午餐を与にして別る。高須梅溪より来書あり。京都の新村出ニ答書を発す。松本忠治へ□代金之内廿五円送る。午後、上野寛永寺ニ行き、徳川頼倫翁之三子葬式ニ

臨む。在燕京異李軒の書到る。信平、漸く危篤、杉山来診。」（六ハウ）

#### 七日

曇。広田来る。稲葉岩吉より、上宮太子帝説刻本を贈らる。星野翁より来書あり。印刷会社の重役会ニ臨む。井口誠一來訪。和泉信平十一時死去。兄弟、親戚へ電報を発す。本田信教、小林堅三、吉田東伍、喜代四、丹呉勝吉、信平死去ニ付手伝旁来る。巖谷小波より、小波身上嘶一冊贈らる。横浜大火、焼失一千戸。深川、又三百戸焼失。共ニ昨夜の事ニ属す。」（六ニオ）半夜越後より電報あり。丹呉翁急病、危篤を聞く。徹宵烈風吹き荒む。

#### 八日

晴。風やむ。丹呉翁死去の電報来る。星野翁祝賀会実行準備会通知来る。丹呉へ悔の電報を發し、葬式の日を問ふ。種村、大島井弁三来る。津市三村清三郎より、鈴屋文書一冊を贈らる。登校事務を見る。午後一時、信平遺骨を」（六ニウ）ちり焼となす為、小日向町日輪寺ニ葬式を行ふ。内子日暮里火葬場迄行く。湯島野田屋へ前日購入

之香爐をかへし、外ニ二、三点購ふ。吉田東伍来る。和泉文三より、信平葬式費として金五十円送り来る。杉山、其他信平知人多く来訪。終日忙はし。

#### 九日

晴。大木操来る。正午、英堂ニ会す。高木を訪ふて帰へる。信平死後の」(六三オ) 事を処す。

#### 十日

晴。小久江成一、山本利喜雄来訪。宇尾野藤八より返書あり。小林堅三を招き、落合村居宅留守居の件ニ付依頼す。同村宇田川重藏ニ書を投ず。牧野靜斎ニ近衛忠房公書簡二卷貸す。信平死後の事を処す。丹呉へ今夕七時出發之電報を發す。登校、田中幹事ニ金融之件」(六三ウ) を依頼。大勢開国史挿画を校す。石井勇の書ニ接す。今夜七時半、丹呉翁葬式ニ臨まんため、大木操同伴、越後行汽車にて上野を發す。

#### 十一日

高田辺にて夜明く。此辺雪深く、平地四尺、線路兩側七、八尺。三月ニ入り如斯大雪、近年稀れ也。汽車、直江津

を離る、十数町にして、汽関車ニ故障を生じて、進行こ、に止まり、」(六四オ) 直江津より汽関車の着する迄、一時間余立往生の有様なりしか、漸く応援を得て発車す。

柏崎駅より田代亮介乗込み来る。村山(岡野町)の葬式ニ臨む為めと云ふ。三条辺にて、宗家の番頭佐野良太郎、又乗り込む。宗家主人の在否を問ひ、携帯の進物を托し遣る。十二時半新津着。これより新発田行線路ニ乗換。

此線ニ乗るは、今回初めて也。此辺、上中越地方ニ比すれば却つて雪浅し。五十五分間にて新発」(六四ウ) 田ニ達す。停車場ニ櫓の設備あり。直ちに乗りて、西条ニ向け發す。途中風雪あり。四時半頃丹呉ニ着。亡翁の臨終の模様を聞く。夜半迄棺前ニ侍し、十二時半辞して寝ぬ。亡翁戒名、松操院月庵淨皎居士、歿年六十有九。

#### 十二日

晴。本日葬式当日に付、丹呉親族来往頻繁。多年疎濶の人ニ会」(六五オ) する少からず。会葬は、一種の懇親会也。正午より読経あり。二時出棺。葬場、観音堂前ニ假設す。中条町青年音楽隊の樂を奏して、先驅をなせるは珍也。

式の時間、約一時間。了つて、音楽隊を先頭として、火葬場ニ到る。余も四、五の近親と随伴す。火葬場は、笠槻に在り。観音堂より約八町、雪路ぬかる処多く、式服の儘の随行、極めて困難を覚へたり。火葬場の結構は、近頃の東京」(六五ウ)に於けるものと同じ。唯た規模は、同日の論にあらず、火をかけて後、退散す。天王宗家より、明日待つ旨、来電あり。今夜、施餓饑の読経あり。

#### 十三日

晴。今朝六時半、遺骨を拾ふ為、近親の男女四、五と火葬場ニ到り、八時より、衆僧は、はらひの式を行ひ、終つて、三十五日繰上げの法要を営む。余は、今日宗家ニ赴く約あり、法」(六五オ)要半ばにして、西条を辞し去る。

亡翁遺命なりとて、かたみに懐剣を贈らる。これは、先考愛蔵の者。窮困時代、或家の有となる。今、終に旧主家ニ帰す。所謂の仏家の輪会歟。北堂の事を、本郷丹後并ニ丹呉相續人康平ニ托し、三時櫓にて発し、薄暮新発田を経、夜に入り天王ニ着。主人と対酌。十一時ニ到り臥す。宗家主人ニ「洪沢男揮毫之額を贈る。」(六六ウ)

#### 十四日

朝来、雪チラ／＼降る。東京宅へ帰期を電報す。宗家僕のために、扇子五、六本揮毫。大木操来訪。朝来、宗家々事上の事ニ付、子息初之丞、波多野英太郎、佐野良太郎交々来り話す。出発時刻切迫之際、主人より饗応を受け、十二時辞し去る。偶々、主人水原ニ赴くに会し、同車す。車中、本間健弥之西条より帰へるに会す。新津駅ニ下車、一時間半にして、東京行汽車ニ投」(六七オ)す。車中、野沢卯市に会し、森知事の暴政談を聞き、長岡ニ於て別る。宗家より贈られたる酒を酌み一睡、十一時ニ至りて覚め、又、二時頃眠り。

#### 十五日

朝七時、無事上野着。直ニ帰宅。中野平弥、和泉文三、石沢兵吾、服部文四郎、石塚三郎外数通の書状を披見す。四谷銀行より三百円、栄城銀行より二百円借入。共ニ約」(六七ウ)手田中唯一郎裏書、期限六十日間。文部省囑託之標準目録追加案、帝国図書館田中館長宛差出す。在大阪文芸協会同人より、絵はかき消息あり。午時、湖畔ニ英

堂と会す。大阪上野理一より、唐拓十七帖を玻璃版ニ付したる法帖を贈らる。原本、上野珍藏也。直ちに書を裁して上野ニ謝す。

#### 十六日

「(六八才)

晴、温暖。日曜。広田来る。寛斎幅代残金八円相渡す。巽李軒より、図書を寄贈し来る。越後帰省中の事を記して、一時間余を費す。児女を伴ふて、落合新築の居宅を検し、植木屋ニ庭樹移植、塙根の位置等を指揮し、午後一時落合を去り、四谷ニ飯してかへる。喜代四より川魚を贈らる。帰宅後、疲労を感じ寝ぬ。

#### 十七日

「(六八才)

雨。畠山慎吾、種村宗八、坂口五峯来訪。大工吉五郎ニ金貳百五十円相渡す。追加工事費の外、これにて全額渡済。午後、登校事務を見る。大阪書肆鹿田へ、昨年の勘定残金十一円也、為替にて發送。大口鯛二より、契沖の書簡一幅示さる。書状を同人へ発し価を問ふ。富士見軒ニ今夜、服部文四郎結婚披露あり。招かれて行く。吉田東伍来訪。高木を訪ふて骨董代十円払ふ。」(六九才)

#### 十八日

晴。本日比岸入り。金融之件ニ付、増田義一を訪ふて話す。帰途星野翁を訪ふ、不在。帰宅後、石沢兵吾、河合仙郎、黒木安雄、出版界記者等交々来る。石沢、黒木、河合と午餐を共にす。午後、登校事務を見る。京都の蘭亭会より来書あり。服部宇之吉、大口鯛二より来書あり。

#### 十九日

「(六九才)

雨。大口鯛二ニ簡し、契沖書簡購入之事を申入る。宗家へ書を発す。星野翁を訪ふて、文稿出版の件を話す。又、宗家継志園碑陰文の起稿を托す。宇尾野藤八より来書あり。服部宇之吉ニ星野翁の件ニ付、書状を發す。

#### 二十日

晴。広田、種村、小久江来訪。池田竜一、広井一、石沢兵吾、増田義一より来書あり。貯蔵銀行手形二枚「(七〇才)二千二百円、更らに切替。小林を丁西銀行ニ遣し、八百円手形切替、期限九十日間、裏書増田義一也。宗家へ書状を發す。石沢ニ答ふ。山崎直三、図書館事務ニ付来訪。午後、登校事務を見る。宇尾野藤八へ書を發す。星野翁

文稿開版ニ付、旧門人阿部貞次郎、熊倉与作、小出喜七郎ニ細書を發す。江部敦夫より來書あり。今夜英堂と会す。外出中、真島信城長男來訪、物を贈らる。」(七〇ウ)

## 二十一日 春季皇靈祭

夜來雨あり、今朝霽、風起る。山田清作來訪。星野翁ニ繼志園碑陰文ニ付、一書を投す。服部宇之吉ニ星野翁旧門生録を郵送す。巽李軒の書ニ接す。終日家居。落合宅行調度を検出す。真島信城長男一郎、來訪。東儀季治より、文芸協會演劇大阪打上、更らに京都ニ向ふ旨報あり。井口誠一結婚披露の案内狀來る(廿七日、精養軒)。」(七一オ)

## 二十二日

風。種村、半迂、河野(研進)外一、二來訪。午後、登校出版部の事を処す。夕刻より、神田宝亭ニ図書館協会同人と会し、大阪図書館長今井貫一の帰朝を祝す。

## 二十三日 日曜

晴。広田、菊屋來る。長岡の豪商羽賀虎三郎、広井一の書狀を齎らし、出京。子息吉郎早稲田商」(七一ウ)科へ入

学の件ニ付頼談あり、物を贈らる。池田竜一より、井上要所藏頼氏遺墨数卷を示さる。蘭亭修禊会より來書あり。又、事務員小島某來る。宗家主人より來書あり。十時より昂同伴、落合別宅ニ到り、庭園植込之差図をなし、午後、四谷ニ飯してかへる。肥田野さくらより、來書あり。今夜、和泉母、信平遺骨を携へ帰国。喜代四同伴。」(七一オ)

## 二十四日

晴。表具屋、額壺面、泉田翁幅二詠ふ。坂口五峰、川上淳一郎來訪。長岡に於ける政治問題を云々して去る。中野平弥ニ書狀を發す。在米国朝河貫一ニ夫人死去之悔狀を發す。登校事務を見る。星野翁祝賀会之件ニ付、熊倉与作の書狀來る。

## 二十五日

雨。名古屋市長阪本釧之助より」(七一ウ)來書あり。廿七日大又ニ招かる。名古屋市史編纂ニ付、余の多少の力をかしたるを謝する也。同編纂ニ従事せる堀田璋左右、踵て來訪あり。吉田半迂來り、近刻之印を示さる。清水慎

太郎妻の訃到る。宗家より、継志園版下ニ訂正を要する処出来、郵便にて送り越さる。登校事務を見る。清水慎太郎へ悔状を発す。学校会計方伊藤正、河村、高野間ニ壹万八千円の不正事件発見。田「七三〇」中幹事と長時間話す。夜来雨あり。

#### 廿六日

晴。四月二日諸井恒平方ニ観山会を開く案内来る。朝倉無声より来書あり。内藤久寛来訪。聖上駐蹕碑を自邸ニ建つるに付、云々の依頼を受く。からすみ、菓子を贈らる。永井柳太郎結婚ニ付、披露の品物を贈らる。小久江誠一同伴、丸善書店を訪ひ、重役齊藤定四郎「七三三」ニ就き、学校之基金の件を談す。午時、英堂と湖畔ニ会し、人形町辺を散策してかへる。

#### 廿七日

晴。内藤と電話を以て話す。石沢兵吾の事に関する。石沢より来書あり。十時落合別宅を訪ふて、庭園移樹の差図をなし、午時、登校事務を見る。東儀季治来訪、京阪演芸の状況を報す。森寛斎太湖石幅改装成る。大阪今井「

七四〇」貫一より来書あり。井口誠一結婚披露ニ招かれ、築地精養軒ニ赴き、一場の挨拶を来賓ニ代つて陳べ、早く辞して浜町大又ニ赴く。名古屋市長阪本釧之助ニ招かれたる也。同席上田万年、三上参次、黒板勝美、堀田璋左右、外史料のもの二人。十一時帰宅。服部宇之吉の書ニ接す。

#### 廿八日

晴。広田来る。果亭の幅預る。吉田「七四二」東伍の来訪を求め、和泉未亡人之事を処せしむ。関屋親次、関西演芸の事を報告して去る。坂口五峰来話。星野翁より来書あり。川上淳一郎来訪。明日大隈伯へ同伴を約す。登校、図書館の事務を処し、半日を消す。豊後の石田熊太郎、可児矢入学の件ニ付来訪。するめを贈らる。山崎直三より、仏国コロ油画之写真を贈らる。川村清雄額面は、此人の画風ニ擬したる也。」「七五〇」

#### 廿九日

風、晴。石田真一郎入学の件ニ付父子来訪。川上淳一郎来訪、ウエスキーを贈らる。同伴大隈伯を訪ふて、内田

三省の政治的態度ニ付話し、結局伯の意見を余の書簡にて通ずる事となり、午後、登校長簡を認め、内田ニ投ず。内藤久寛、川上淳一郎ニ書を発す。松平康国を訪ふて、内藤久寛より依頼の駐蹕之碑の撰文を托す。今夜同人と共に、池田隆一ニ招かれ、赤坂三河屋（七五ウ）ニ飲む。中野平弥より来書あり。

### 三十日

晴。日曜日。下林貞雄、欣二身上の事ニ付、高田俊雄、小柳善四郎不都合之件ニ付、吉田東伍、信平未亡人之件ニ付来訪。飯田新太郎代理来り、物を贈らる。薄田貞敬、又来る。杉山より、昨夜男子分婉の趣申来る。直ちに答書を発す。朝来俗事紛々、特ニ疲勞を覚ふ。午後より児を伴ふて、（七六オ）浅草辺ニ散策してかへる。

### 三十一日

晴。坂口、近々帰郷ニ付物を贈る。おしほ出京の噂あるニ付、北堂ニ書を発す。石沢兵吾、牧野謙次郎、大工吉五郎ニ書状を発す。山田清作、林瑛、安田勲来訪。校僕を招き、半日庭掃除を為す。登校事務を見る。丹後直平

より来書あり。直ニ答ふ。四時学校より落合別宅ニ抵り、庭園植込の差図をなしてかへる。（七六ウ）

### 四月

#### 一日

晴。新村出東京ニ付、今夕小会を催す旨、和田より申来る。対馬阿部貞次郎より、星野翁文稿刊費十円、送り来る。中野平弥来訪。種村宗八、石沢兵吾長女操、斎藤正義、坂口五峰交々来る。五峰と午餐を共にして別る。中野より物を贈らる。文部省より標準目録編纂委員手当として、金四十円贈らる。落合居宅植木屋手間代（七七オ）、五十円仕払。登校、出版部員を会して、長時間協議す。夕刻より、新村出を神田川に招飲。

#### 二日

晴。杉山茂吉を訪ふて、其生児を見る。春雄と名を命ず。落合へ回はり、植木屋ニ指図をなし、正午、登校事務を見る。島文次郎の書ニ接す。又、内田三省より来書あり。野口多内妻来る。五時より諸井恒平方ニ観山会あり、出



席す。」(七七ウ)

### 三日 大祭日

晴。小林堅三、広田金松、斎藤正義来る。宗家より、園記の件ニ付電報来る。直に返電を發す。中村芳雄ニ簡して、園記補筆を日高秩父ニ乞はしむ。日本橋俱樂部ニ至り、義之蘭亭修禊会ニ臨む。其の列品を見る。墨帖の内、格別見るべきものなし。書画之内、二、三点会心のものあり。茶席の設けあり。一杯を喫し、黒木欣堂、菊「モハセ」池惺堂と話す。抽籤にて書画之配布を受く。不折鶴の図を得。詩会あり、臨ます。庭上ニ群鷺を見る。座敷ニ義之の像を置く。祭典開始前、辞し去る。上野の花を見る。今日正ニ満開。英堂と会してかへる。外出中、吉田東伍、竹村良貞、林瑛交々来訪のよし。今日兒女兩人、杉山方へ祝儀ニ遣す。表具屋ニ金五円払。

### 四日

「(七八ウ)

好晴。関屋親次、斎藤正義来る。羽賀虎三郎外二人、来訪ニ付、書画を示す。踵て桂湖村来る。鑑賞談ニ時を移す。午餐を与にして別る。午後、文部省へ出頭、委員手

当仕払命令を受取。日本銀行にて正金請取、帰宅。在朝鮮伊与部太吉より来書あり。江部淳夫より来書あり。四時頃より兄同伴、落合別宅庭園檢分の為め行く。夜に入り、四谷ニ飯してかへる。」(七九オ)

### 五日

好晴。朝来数通の書状を学校方面ニ寄せ、雜事を処す。兒女を伴ふて、上野の桜を見、終に浅草ニ嘯し、活動写真を見てかへる。日高秩父ニ托したる繼志園記の書き換出来ニ付、直ニ宗家へ郵送す。山口玄洞より、基金五百円入書状来る。飯塚弥一郎より、其の次男入学の件ニ付、来書あり。山崎恒四郎より、一身「(七九ウ) 上の件ニ関し、云々し来る。昆田文二郎ニ書を發す。和田万吉より、徳川頼倫侯訪問の件ニ付、日時を報し来る(十二日午前十時)。

### 六日

晴、風。暖気夏の如し。大石理円、種村宗八来る。内藤久寛ニ書を投す。原澄治来り敷物を贈らる。高木平山堂を訪ふて、骨董を見る。午時、風月堂ニ嘯す。今日午後、

藤山治一に高輪佐野伯邸ニ招かる。」(ハ〇オ)都合あり電信にて断はり行かす。喜代四、越後より帰へる。赤塚啓一來る。

#### 七日

晴。中野貫一來訪、反物を贈らる。本田信教来る。文芸協会之件ニ付、坪内逍遙を訪ふて、幹部会を開く。落合別宅井戸ポンプ装置を誂へる。文芸協会々議後、坪内氏より落合別宅ニ到り、烈風中植木の差図をなしてかへる。不」(ハ〇ウ)在中、神谷□治、丹後直平子息同伴来訪、物を贈らる。文部省より、標準目録案を贈り来る。内藤久寛より来書あり。十二日図書館協会の田中一貞、西村竹間送別会通知来る。

#### 八日

雨。文芸協会の件ニ付、金子馬治と高田を訪ふて話す。高須梅溪より、図書展覧会の顧問を托し来る。丹後正雄、早稲田予備校へ入学」(ハ一オ)之件に付来る。其の保証人となる。高田俊雄、小柳善四郎身上的の件ニ付来る。来る十日奥の植半ニ小宴を開く旨、日清印刷会社より案内状

来る。高島屋呉服店飯田新三郎来訪。内藤久寛より来書あり。午後、再び高田を訪ふ。坪内、金子と、文芸協会の島村抱月問題を協議す。お志保の件ニ付、北堂より来書あり。

#### 九日

—(ハ一ウ)

昨日来の雨、今朝みそれと変して、午後霽。広田来り、唐経三卷齎し示す。菊屋、花を携へ来る。朝鮮青磁の香炉を購ふ。高木より、骨董勘定書来る。野沢悌一郎兄弟来訪。鶴の羽帯を贈らる。小久江成一来話。午後、広田携帯之唐経三卷を携へ、和田万吉を帝大図書館ニ訪ふて比較研究をなし、後相携へて、都鳥に酒飯を共にして帰へる。丹呉へ忌中見舞として、菓子箱を小包」(ハ二オ)にて発送す。

#### 十日

雨、霽。半迂来る。近作を示さる。内藤より依頼之碑文字割を托す。富山県校友小沢隆一、高田俊雄と共に来り、物を贈らる。新潟の坂口、野沢卯市ニ紹介状を与ふ。吉田東伍、和泉未亡人之件ニ付、来訪。星野恒来訪、物を

贈らる。井口誠一、卒業証書意匠の件ニ付来る。倒叙日本史二冊、坪内のシーザー製」(八二ウ) 本出来、山田清作来る。午前、接客ニ疲れ、午後より外出。内子同伴、浅草辺ニ散策。五時より日清印刷会社の招待会ニ赴く。会場は、奥の植半。帰途、高田と上野ニ飯し、十二時帰宅。

#### 十一日

晴。睡眠不足の為、朝来頭痛を覚ふ。大江乙亥、川合仙郎来る。児と共に落合の別宅ニ到り、庭園を見る。電車にて九段下ニ来り、高」(八三オ) 木方ニ骨董二、三点を購入ひ、勘定の内へ十五円払ふ。風月堂ニ飯し、湖畔ニ到り、英堂ニ金子入書状を發し、帰宅。学校と書簡の往復を為す。和田万吉より来書あり。宗家主人より、上京の旨来書あり。下村正太郎、内藤久寛、阿部貞次郎、宗家へ書状を發す。又、星野翁文稿版下の事ニ付、黒木安雄ニ書投す。石沢みさを、赴任先より来書あり。」(八三ウ)

#### 十二日

晴。栗林茂、小坂、芝田画会の件ニ付、巖谷小波の紹介にて来る。今朝、和田万吉、太田為三郎同伴、徳川侯爵

を麻布に訪ふて、図書館協会の為めに総裁たらんことを求めて、其承諾を受け、長時間談話。午餐を与にし、それより慶応義塾図書館ニ到り、図書館協会の地方会ニ臨み、総裁承諾の事を余より披露し、柳田国男、本田浅次郎の講演あり。終」(八四オ) つて、三田東洋軒ニ西村竹間の帝国図書館を退官したる慰労会を兼ね、田中一貞の洋行送別会を開く。小沢竜一、新潟出先より鱒を贈り来る。不在中、半迂、内藤より依頼之碑文字割図を持参。

#### 十三日

風。木村正辞の訃到る。内藤久寛ニ簡す。駐蹕碑字割図案を郵送す。中野平弥より、維新志」(八四ウ) 土書簡巻の鑑定を乞ひに人を遣はさる。直ちに返書遣す。畑正吉、土屋詮教来話。内藤久寛より来書あり。又、直ニ答ふ。午後、みつを携へ、芝公園紅葉館ニ開会の学校教職員の間交会ニ赴く。何れも家族同伴せる事として、来会者三百名ニ達す。薄暮家ニ帰へる。吉田東伍より信平未亡人の件ニ付来書あり。

#### 十四日

「八五オ」

好晴。大石理円、加納、東儀、種村、半迂交々来訪。学校部面之事を処す。八木淳一郎より来書あり。午後、松平康国を訪ふて、内藤依頼之撰文原稿を申受け、登校事を処す。下村正太郎より来書あり。小出喜七郎、熊倉興作より来書あり。共ニ星野翁文稿出版費寄贈金同封。高須梅溪、重栖健之書ニ接す。英堂と会す。夜来雨あり。石沢兵吾来訪。内藤久寛ニ書状を発す。」「八五ウ」和田万吉より来書あり。

#### 十五日

雨。吉田半迂、吉田東伍、石沢兵吾、棒亦七、加納、飯田俊雄等続々来訪。半日応接ニ忙殺せらる。野口多内、田中唯一郎、又来訪。午後、登校事務を見る。中野忠太郎より来書あり。宇尾野藤八、和田万吉、小出喜七郎ニ書を投す。関屋親次来話。畑正吉、文部省専門学務局ニ書を投す。」「八六オ」

#### 十六日

雨、霽。山本利喜雄紀念録之件ニ付来話。宇尾野藤八よ

り星野翁文稿出版費、在越後門人寄付金五十円送金あり。直ニ答書を発す。落合宅地内堀井ニポンプ据付費四十四円相払。文明協会事務員浦野熊太郎、大阪出張ニ付来訪。畠山慎吾より越後梨果を贈らる。午後登校。内田貢へ使を遣し、謝物を贈る。倒叙日本史之手伝を謝す」(八六ウ)る也。日清印刷会社ニ実業日本社の石井勇と会し、大隈伯開国大勢史販売方法を協議す。四時、木村正辞翁の葬儀ニ列するため谷中斎場ニ到る。内藤久寛より金子入書状来る。杉山茂吉来る。星野翁文稿出版費へ寄付者五十嵐甚蔵、今井玄平、大沢豊太郎ニ書を発す。不在中小沢隆一來訪。

#### 十七日

「八七オ」

晴。内藤久寛へ書状を発す。行違一書来る。広田より、容堂書簡額を購ふ。価十八円也。新村出ニ簡して、内藤依頼之駐蹕碑篆額を在京都羅振玉ニ依頼之事を托す。畑正吉、紀念メダルの図案を携へ来り示す。肥田野畏三郎(在大連)より来書あり。斎藤俊蔵より物を贈らる。郷里須貝彦松より、五十公野ニ購入せんとする宅并ニ地所の

候補地ニ付来状あり。大鳥井弁三、文明協「ハセウ」会々務拡張の件ニ付来訪。吉田半迂ニ内藤依頼之碑文字割を托す。本田信教来訪。登校事務を見る。落合村別宅ニ到り見る。下駄ぬき石小箇所を購ふて、別宅ニ運はしむ。四谷ニ飯してかへる。不在中、校友田制佐重来訪。大隈伯開国大勢史製本出来。

#### 十八日

雨。吉田半迂、種村宗八、松平康国来訪。碑文の事ニ付、内藤ニ「ハハオ」書を發す。畑正吉へ学校徽章の原図を送る。田制佐重、長岡学校を逐はれたるニ付、陳情之為来る。校友武田林一、大阪へ赴くに付、紫安、高山へ添書を与ふ。午後、高木を訪ふて紫泥小山作水滴を購ふ。英堂と都鳥ニ午餐を共にして帰へる。小田島彦太郎の書ニ接す。大工吉五郎ニ書状を發す。

#### 十九日

好晴。落合別宅留主居の件ニ付、杉「ハハウ」山茂吉ニ書を投す。小田島彦太郎ニ答ふ。在台湾重栖健ニ書を發す。坂口五峰より味噌漬を贈らる。落合別宅へ当座入用之品

物を車ニ積み運はしむ。在大連肥田野畏三郎ニ書を發す。広田来る。容堂書簡額代十七円払。藤井忠次郎来訪。両三日来、足部ニ疼痛を覚ふ。今日漸々甚し。杉山より藥を貰らひ塗る。広瀬吉弥之計到る。登校事務を見る。落合を廻り「ハルオ」帰<sup>マモ</sup>京。在生麦宗家より来状あり。平田職康来訪、物を贈らる。

#### 二十日

曇。小田島桂香来訪、半日書画を示して共々消賞、午餐を与にして去る。菊屋、井口誠一來訪。越後より落合別宅留守居の男、上京。直ニ落合へ遣す。小田島より筆筒一購ふ。往年兼葭堂の私物として出たるもの、よし。午後、児を伴ふて浅草ニ到り、夜に入り帰宅。足部「ハルウ」疼痛益々甚し。杉山来診、リウマチすと診定す。

#### 二十一日

晴。落合へ植木若干を移す。田中唯一郎来訪。学校より近刊書横山又次郎の陸文学外二種送り来る。美術正論記者来り、余の談話を請ふ。即ち絵画覆本の事を論して、筆録せしむ。九時より田中唯一郎同伴、学長邸ニ会し、

近頃起りたる会計方三名の不正消費二万円事件」(九〇オ)

処分問題、学長、幹事、監査役責任問題、賠償問題、善後策ニ付長時間協議し、午後一時辞し去る。帰宅後、落合別宅ニ至り、庭園植込の差図をなしてかへる。足部傷麻致斯疼痛益々甚しく、帰宅後室内歩行すら成りかたう、今夜南葵文庫ニ図書館協会的重要事件を決する評議員会当日なれとも、行く能はず。山沢俊夫より使を以て、竹沙の山水幅」(九〇ウ)を示さる。文明協会刊本ニ配布し来る。

## 廿二日

雨。宗家へ書状を発す。小田島、山沢俊夫へ同断。種村来訪。内藤久寛より来状あり。午前九時登校。恩賜館内一室ニ、学長、理事、監査役、幹事秘密会を開らき、会計欠損二万円問題ニ関し、学長、幹事責任并ニ賠償方法を長時間協議し、午後、尚席を改めて協議の」(九一オ)末決定する所あり、明後日維持員会を開くニ決す。小田島桂香より紀徳民書幅小品を示さる。内藤久寛ニ書を復す。

## 廿三日

細雨。高須梅溪、山田清作、吉田半迂、田中唯一郎、高島屋手代井上交々来訪。足痛ニ付登校せず。午後、多少発熱あり、平臥夜に入る。和田万吉より、図書館協会評議員会の仕末を報するの書」(九一ウ)到る。畠山慎吾来訪。小林堅三より梨果を贈らる。

## 廿四日

小雨後晴。足痛の為、蓐中に在り。畑正吉来り、記念メタル背面の作を持ち来り示さる。広田より敦煌石室発掘の唐経一卷を購ふ。価三十円也。未払。和田万吉、須貝彦松ニ書状を発す。本日学校に於て、会計不仕末一件を処するの維持員会あり。歩行叶はず行き」(九二オ)難きにつき、学長ニ書を寄せて、云々の事を申送る。外ニ新艇命名の件ニ付、坪内逍遙ニ書を発す。又、英堂ニ書を与ふ。午後、宗家より使来り物を贈らる。并に金五十円也、星野翁文稿寄付金并ニ碑陰記立稿謝金として遣はさる。武田林一大阪より発したる書状来る。午後、又多少の発熱あり。晩間田原来訪。維持員会の状況を報して去る。

前島男へ使を以て、宗家よりの謝物を為持遣す。」(九二ウ)  
繼志園篆額を謝する也。吉田東伍来話。杉山来診。

#### 廿五日

晴。朝来蔭中に在り。田中幹事近日の問題ニ関し来訪。  
種村、小久江出版部の件ニ付来話。小林堅三ニ書を投す。  
内藤久寛より来書あり。畠山慎吾来る、不遇してかへす。  
朝倉無声より、余の所藏蜀山人盆燈籠にものしたる書を  
模刻して、掲載の「此花」雑誌を寄せ来」(九三オ)る。今  
日発熱なし。午後四時、飛行機屋上を掠めて去る。高島  
屋呉服店より、アルバム表紙見本を郵送し来る。下村観  
山病氣ニ付、見舞金壹百五十円贈る云々、観山会より通  
知書到る。

#### 廿六日

晴。小快。尚蔭中に在り。広田、菊屋、小田島彦太郎、  
松井郡治、斎藤庫造来訪。床上接客ニ忙はしく、半日を  
消す。千葉鉦藏より自訳」(九三ウ)西洋脚本三冊を贈らる。  
新村出より来書あり。孔子祭典会(明廿七日)より案内  
状到る。落合別宅用鼠入らず出来。六円五十銭払。小田

島へ筆筒代、白高麗印壺頼代合はせて十円相払。

#### 廿七日 日曜

雨収り、烈風起る。学校之不仕末事件ニ付、高田学長、  
田中幹事来話。踵て池田竜一來る。林瑛来り成功雜誌之  
為、余の談話をもとむ。」(九四オ)他日を約してかへす。星  
野博士祝賀会より来状あり。千葉掬香ニ近訳脚本を贈ら  
れたるを謝す。小田島より来書あり、直ニ答ふ。晩間昆  
田文二郎見舞ニ来り、多時話して去る。夜来雨あり。英  
堂ニ書を与ふ。落合別宅畳、襖、障子装置し了る。

#### 廿八日

雨。種村、大原来る。足痛未癒へされとも、雨を冒して  
落合ニ到り、造」(九四ウ)作を検して帰へる、午後三時登  
校。不仕末事件ニ付、維持員会を開く。吉田東伍より、  
自撰松雲詩草を贈らる。杉山方へ産衣を為持遣す。丹呉  
康平より祖父忌明謝状来る。

#### 廿九日

雨。広田、種村来る。気分引立されど外出、物を購ふ。  
終ニ高木を訪ふ、獲る所なし。英堂と会してかへる。内

藤久寛より来書あり。直ニ答（九五才）ふ。大鳥井弁三より病氣見舞を贈らる。午後静養、家に在り。内田貢より来書あり。実業の帝国主筆辰野茂登太、不在中来訪。足痛横臥中、便秘之為聊か痔を発し、調薬を杉山ニもとむ。朝倉無声、山田清作等ニ書を発す。来月二日午後、前島男邸に招かる。

### 三十日

晴。早朝より田代亮介来訪。書画を展観す。吉田東伍ニ書を投（九五ウ）す。落合高田弥一郎ニ札金十円為持遣る。別宅建築ニ付種々世話を頼みたるによる。丹呉より忌明礼として、菓子箱来る。直ニ礼状を発す。陰鬱の天気にて気分勝れず。午後より臥す。吉田東伍来訪。長時間話して去る。萩野左門より来書あり。夜来雨あり。頭部ニ神経痛を覚へ、不快甚し。（九六才）

### 五月

#### 一日

細雨、霏々。種村、開国大勢史之件ニ付来る。小林堅三、

大鳥井弁三、又来訪。畠山慎吾も身上之件ニ付来話。星野博士より来書あり、直ニ答ふ。午後雨ますく降る。今日も登校せず。静養家に在り。信平未亡人（マヤ道）善（マヤ道）後行悩み、吉田東伍手より若干の出金あり。自分より十五円出金を決し、内子をして吉田へ回さしむ。これにて全く手切れとなる。本田信教書（九六ウ）画帖ニ書を乞ふ。一揮して還へす。大阪海老友次郎より市会議員選挙ニ付、砂川の加勢を乞ふ旨来書あり。砂川ニ書を発す。四時より神楽坂青陽楼ニ出版部事務の幹部員を会し、事務上の打合を為す。

#### 二日

曇天。今朝腹痛を覚へ二回利す。落合別宅へ諸道具車ニ積（九七才）送り遣す。早朝高島屋手代井上、日清保険の高須安一、「大正家庭雑誌」へ談話をもとめに来る。明朝を約しかへす。開国大勢史販売協議の為石井勇、種村小久江、高田俊雄来り協議す。広田金松も来る。内藤久寛依頼碑文を日下部鳴鶴ニ乞ふの件ニ付、日下部金三郎ニ一書を発す。太田為三郎ニ書を投す。堀紫山妻死去ニ



付悔状を發す。小田島より使来る。預り印譜一、幅二返却。」(九七ウ) 林縫之助より来書あり。今夕前島男邸へ日清生命重役と共に招かる。疾を力めて行く。山崎直三、見舞ニ来る。林ニ答ふ。内藤久寛ニ書を投す。藤井忠次郎、近々渡清ニ付内子を遣して物を贈る。

### 三日

陰後雨。半迂来る。宗家へ書状を發す。日清保險社員、大正之家庭雜誌ニ説を乞ふ。即ち二時間」(九八ウ) 余談話して筆録せしむ。千葉掬香より近著を贈らる。京都新村出を介して羅針玉<sup>(マニ)</sup>ニ揮毫を托したる駐蹕碑篆額小包にて到達。尚此件ニ付新村より電報来る。在阪武田林一より来書あり。午後高木を訪ふて落合別宅用具数点を購ふ。濁川真島より叔母七年忌菓子来る。太田為三郎より来書あり。晚来驟雨あり。雷鳴と、ろく。日下部金三郎、石井勇より来書あり。」(九八ウ)

### 四日 日曜

晴。内藤久寛来訪。神楽江卷石来り近作を贈らる。太田為三郎、図書館協会の総裁推戴式ニ付来話。文明協会の

前途ニ関し杉山重義、大島井弁三来訪。午後迄協議を擬して去る。午後より落合別宅へ行く。永田誠一來訪。京都新村出より羅振玉篆額書直し一通領掌。越後より来れる落合留守居、役ニ立ち難く明日解」(九九ウ) 放と決し、滝沢為也兄春治を当分留守居となすニ定め今夜引移る。

### 五日

晴。今朝、内藤を訪ふて碑文の件を話し、内藤之為日下部鳴鶴を青山南町ニ訪ふて碑文の揮毫を依頼し、去つて中島久満吉を青山北町ニ訪ふ、不在。帰宅後佐藤吉五郎来る。午後、登校事務を処す。小出喜七郎より来書あり。直ニ答」(九九ウ) ふ。宗家より来書あり。

### 六日

陰。内藤久寛早朝来訪。広田金松、吉田半迂来訪。林瑛、成功雜誌之為談話を乞ふ。乃ち諾して、談話中頻々来客あり。中止して明朝を約してかへす。林縫之助来り書簡巻を示さる。和蘭陀公使館より十四日午餐会の案内来る。」(一〇〇ウ) 正午英堂と会す。二時より登校、三時より大隈伯邸に於て開国大勢史披露会ニ臨む。真島桂次郎へ

礼状を發す。太田為三郎より図書館協会推戴式之相談會結果を報じ来る。

#### 七日

快晴。早朝、内藤久寛を訪ふて話す。表具屋ニ竹沙幅改装を托す。成功雜「二〇〇」誌の爲談話し、林瑛をして筆記せしむ。宗家主人より小川氏死去ニ付、帰国の事を報じ来る。真島へ香を送る。日清印刷の重役会ニ臨む。午後より登校事を見る。岡田正之、新村出、太田為三郎へ書を發す。大鳥井弁三、杉山重義と数時間ニ涉り、文明協會前途之事を協議し、六時帰宅。隈本有尚、高沢寿の書ニ接す。「二〇一」

#### 八日

晴。吉田半迂ニ内藤依托之碑篆額揮毫を托す。広田より乾也作陶製翁面を購ふ。坂口五峰來話。今日落合別宅用具、荷車ニ載せて出す。午後、登校事務を処す。出版部事務の改革案を決す。三時より落合別宅ニ到り家具の配置を為し夕陽帰宅。新村出之書到る。又、岡田正之より答「二〇二」書到る。

#### 九日

陰冷。星野翁、石沢兵吾、高橋義彦の書到る。高橋より五十公野地所の件申来る。菊屋来る。宋窯花生、南蜜水指并花入を購ふ。代金二十五円の内十円払。石沢兵吾来る。今日より図書館ニ傭入る。飯田敏雄來話。在新潟小「二〇三」波山人より絵はかき来る。星野翁を訪ふ、不在。高木を訪ふて一、二の骨董を購ふてかへる。不在。中圖書新報記者塚原徹來訪。午後、登校事務を処し、晩間帰宅。

#### 十日

陰、午後降電あり。烈風吹き荒む。朝、畑正吉、赤堀又次郎来る。吉田半迂ニ托したる篆額并ニ全碑字「二〇四」割図出来、書状を添へて内藤久寛ニ郵送す。前島男を訪ふ。不在ニ付子息と話して去り、高田を訪ふて校用を話し、帰宅後大工吉五郎来る。午後、和蘭公使ニ招かれ帝國ホテルニ到る。日蘭の人二十名程会す。席上公使と大隈伯の演説あり。四時帰宅、直ニ矢來俱樂部ニ開會の出版部編輯会ニ臨み、夜に入り帰宅。「二〇五」

## 十一日

晴。畑正吉より来書あり。直ニ答ふ。大工佐藤へ書状を發す。みよ戸籍之件ニ付、和泉へ書を發す。隈本有尚、小田島彦太郎来訪。日本図書新報社塚原徹来り説話を請ふ。即ち談話を筆録せしむ。岡田正之、星野翁文稿の件ニ付来話。池島賢造、文明協會の件ニ関し来訪。客去りて後、星野翁を訪「(一〇三ウ)ふ。宗家繼志園碑陰記の草稿を示さる。午餐の饗を受け帰宅後、高田を訪ふて荒川信賢を招き、今後事務の取り方ニ付説示。在生麦別莊宗家主人ニ星野翁起稿の繼志園碑陰記を郵送す。岡田正之ニ星野翁訪問之結果を報す。

## 十二日

「(一〇四オ)

今日、浅野総一郎訪問ニ付、前島と電話の復往を為す。内藤依頼之件ニ付、日下部鳴鶴ニ書を發す。出版部事務上之件ニ付、種村来る。又、寄宿舎長矢沢来る。小田島桂香、菊屋、学校方面ニ数通の書を發す。今日、落合別宅へ茶棚、長卓、夜具、膳等を為持遣る。浅野惣一郎を東洋汽船会社ニ訪ふて、学校之基「(一〇四ウ)金募集の談を

為す。正午、英堂ニ会せんとす。病むて会する能はず。

去つて風月堂ニ飯し高木方ニ物を購ひ、落合別宅を見舞ふてかへる。旗野蓑織新夫婦夜に入り来る。

## 十三日

雨。出版部の件ニ付小久江、俊雄、種村来る。池島賢造、文明協會勸「(一〇五オ)誘之為新潟へ出張ニ付、山川総太へ添書を与ふ。畑正吉来話。広田来る。古経代十円払。菊屋来る。花瓶一返へす。小田島ニ返書を投す。四谷三百円、栄城銀行二百円手形期限ニ付、今日更らに六十日の約手を發す。田中唯一郎裏書也。石沢兵吾を招き同人身上之件を云々す。赤堀又次郎、小林堅三来訪。午後、登校事務を見「(一〇五ウ)る。又、出版部事務員を会し、事務改革案を發表諭示す。三時より神楽坂青陽軒ニ開会の文明協會幹部会ニ臨み、夜に入り帰宅。日下部鳴鶴、太田為三郎、江部淳夫の書ニ接す。

## 十四日

晴、風。種村、桂湖村、大工佐藤吉「(一〇六オ)五郎来る。岡田正之より来書あり。畑正吉へメタル製作料使ニ為持遣

す。登校事務を見る。二、三の郵書を發す。高木を訪ふて端溪研を得。兎を拉して四谷三河屋ニ飯してかへる。

#### 十五日

朝来冷氣甚し。内藤久寛より來書あり。稲葉君山來話。美術正論」(二〇六) 記者來り談話を乞ふ。書画副本論を一時間程談論して筆録せしむ。半迂來り近作を示さる。小田島桂香より書簡反故を為持使來る。短冊代共十七円払。团子坂河野骨董を持參。筆一本、燭台壺個購入。内藤ニ書を投す。午後より落合別宅ニ至り、植込の残りたる部分を明日より植木屋を入れて遣らせ了」(二〇七) する事ニ決し、高田弥一郎ニ二、三の事を托す。表具屋ニ道春短冊の幅、書簡三、表装を托す。夜に入り星野翁祝賀会の件ニ付、岡田正之ニ細書を投す。夜來雨あり。

#### 十六日

雨降りつゝ、く。日下部東作、岡田正之ニ書を發す。広田、菊屋來る。広田ニ唐經代金之内十円払」(二〇七) 菊屋より小竹五絶半折幅を購ふ。代価二十円の内用品八円五十錢払。学生金藤幹一身上之件ニ付來話。高橋義彦ニ書

狀を發す。午後、登校事務を見る。會計不正問題ニ付學長と密議す。星野博士祝賀会寄付勸誘之書簡(旧水原門生ニ与ふる分) 草案を作り印刷会社へ廻す」(二〇八)

#### 十七日

快晴。吉田半迂、御手植樹銅版彫刻の字割を携へ來る。永井如雲、人物肖像出版の件ニ付來訪。其の贊助員たることを諾す。道二の肖像幅を貸す。十時昂同伴落合別宅ニ到り、植木屋を差図し、門の牆根ニ着手す。五時坪内方へ行く。新作役行者の本読を聞き晚餐後幹部会」(二〇八) を開らき会の重要な件を協議す。夜に入り帰宅。島村抱月の一身上ニ関し高田の書狀到る。又、日下部鳴鶴の答書ニ接す。

#### 十八日

晴。日曜。日下部鳴鶴ニ書を為す。内藤久寛ニ書を發す。高橋義彦の書來る。島村抱月」(二〇九) 一身上の件ニ付高田を訪ふて話す。十一時去つて落合別宅ニ到る。昨日來、植木、門より宅迄の道路両側ニ植込を為し、今日略々成る。高田弥一郎より二、三の樹を贈られ庭内ニ植添ふ。

半日落合ニ在り。夜に入り帰宅。岡田正之より答書あり。七條愷より星野翁文稿版下の見本を遣はす。西化屋ニ夏外套を注文す。不在中、黒木「二〇九ウ」安雄来訪。石沢娘操の郵書到る。終日烈風。

#### 十九日

晴。黒木欣堂、並木覚太郎、故藤山銀太郎男茂彦、本田信教、菊屋等交々来る。登校事務を見る。会計規定の協議会に臨む。大阪小林儀三郎、京都新村出、高橋義彦等の書ニ接す。越「二〇モ」佐会幹事と話す。日清生命保険会社ニ到り株券25の切替を為し、帰途風月堂ニ飯してかへる。今日貯蔵銀行手形期限ニ付、更らに印刷株担保の分壹千円（期限六十日間）、保険株担保の分壹千二百円の内六百円返金、担保三十株引取、二十株を留め更らに六百円手形六十日間、裏書人なしに「二〇モ」差入。終日忙殺せらる。星野翁祝賀会の件ニ付、服部宇之吉の書ニ接す。同伴ニ付七條愷ニ書を發す。

#### 廿日

雨。広田来る。唐経殘金払済。七條愷、星野翁文稿出版

の件ニ付来訪。字割ニ付指図を為す。又、提出之見積書を岡田正「二二モ」之へ郵送す。登校事務を見る。星野翁越後門人四十名へ寄付金を促す書面を發送す。星野恒、前島密、貯蔵銀行等へ書を發す。学報編輯の事を処す。高木を訪ふ。得る所なし。去つて湯島下都鳥ニ飲む。英堂病氣ニ付金円を贈る。

#### 廿一日

「二二ウ」

陰。校友藤本肅来話。高島屋の井上孝藏、学校之校旗、職服意匠の件ニ付、大島居弃三会務ニ付来訪。吉田半迂、又来訪、近作を示さる。高島屋より栖鳳の画を織出したる重掛を贈らる。大工吉五郎ニ書状を發す。午後、登校事務を見る。三時より落合別宅へ廻り植木屋ニ指図をなし、夜に入り昂と共に四谷ニ飯してかへる。六「二二モ」月二日、日清生命保険紀念祝宴ニ招かる。高橋義彦より来書あり。

#### 廿二日

晴、今晩地震あり。金子馬治来訪ニ付、文芸協会の前途ニ就き協議す。正午、登校事務を見る。旗野みのり来訪。

朝河貫一より来状あり。学校之旗章、式服、式（二二三ウ）帽、アルバム表紙等の意匠ニ付、坪内、佐藤（功一）、島村抱月等と学校に於て協議会を開き、長時間を経てそれ／＼決する所あり。会后、坪内、金子と文芸協会の前途を話す、決せず。宗家主人神楽坂求友亭より迎へ二人を遣はさる。即ち行く。繼志園碑陰記ニ付協議し、酒飯を共にし十時帰宅。高橋義（二二三オ）彦より果亭観音幅を審定依頼之為め送り遣はさる。大阪より藤田伝三郎銅像建設ニ付、寄付金勧誘状来る。陛下御不例（肺炎）の号外出つ。

### 廿三日

晴。今朝、落合高田へ人を遣し、植木屋の事を云々す。赤堀又次郎、渡辺脩次郎、本田信教、菊（二二三ウ）屋、広田交々来る。植木屋来り庭園の入手を為す。落合へ明日家具を遣すニ付、数十点検出す。午後、登校維持員会ニ臨む。会議時間四時間に達し、会計規則其他重要な事を協議す。巽来治郎（在北京）より来書あり。渡辺喜左衛門より星野翁の件ニ付来書あり。今泉鐸次郎父死去ニ

付悔状を發す。（二二四オ）校用にて松井郡治ニ書を投ず。四谷平山堂を訪ふて建部凉代墨梅双幅、簞花入、唐物經箱を購ふ。此分すべて勘定済、外ニ竹谷筑波山幅代十二円払済。

### 廿四日

晴。種村宗八、吉田半迂来る。畑正吉、紀念銅牌鑄造見本を齎らし来り示さる。外ニ石膏の大隈伯（二二四ウ）肖像を額にしたるを紀念にとて贈らる。今朝、落合別宅へ家具を車に積み為持遣る。これにて家具略々調ふ。山田英太郎二男の訃到る。十一時家を出て落合別宅ニ赴むき、半日同処に在り。大工吉五郎来る。金五十円内金相渡。晩間帰宅。京都発田代亮介より絵はかき来る。小田島桂香より古銅印類を贈らる。（二二五オ）聖上御不例一時大発熱之处、漸く佳良の御状態との新聞号外出づ。

### 廿五日 日曜

好晴。柳原某来訪の外来客なし。末女を携へ神楽坂ニ落合用の物を買ひ、十一時頃落合別宅ニ行く。おくれで昂も来る。すいみつ桃立木十本を売りに（二二五ウ）来るもの

あり。購入れ臨時ニ植木屋を招き、桃之植付けを始め、後庭ニいくばく模様をなし夕刻迄落合ニ在り。帰途四谷三河屋ニ飯して帰へる。高須梅溪より物を贈らる。

#### 廿六日

晴。日清印刷会社の重役会ニ臨み、午後迄かゝる。同所へ実業の」(二二六オ)石井勇を招き出版部員と共に開国大勢史販売上之打合を為す。帰宅後、小田島桂香来訪。

#### 廿七日

雨。松井郡治、畑正吉より来書あり。下村観山、病氣入院之处平愈、退院の挨拶状来る。吉田久平ニ書を発す。落合別宅へ廿九日世話をしたる高田、宇田川、大工佐」(二二六ウ)藤を招く事ニ定め案内状を発す。高橋義彦ニ果亭幅鑑定の結果を報す。金子馬治来訪、文芸協会前途之事を協議す。日清保険株五を担保とし、出版部より百五十円来月未迄融通を頼み金請取、普請用仕払ニ充る為也。大沢豊太郎より来書あり。平山堂を訪ふて書画を観。赤坂溜池三河屋ニ」(二二七オ)飯してかへる。

#### 廿八日

晴。今朝、内藤碑文揮毫之件ニ付、鳴鶴翁を青山ニ訪ふて長時間話し、中島久満吉を青山北町ニ訪ふて、学校より要求之古河寄付金の事を話し、去つて九段下風月堂ニ飯し、高木方ニ物を購ふてかへる。郷人」(二二七ウ)土田亦次郎出京ニ付書を寄せ来る、直ニ答ふ。内藤久寛ニ書を投す。不在中、久、春雄を携へ来る。犬張子を遣す。菊屋来り花を贈らる。種村宗八又来訪あり。

#### 廿九日

晴。肥田野畏三郎より同人長男克巳、晩クー波ニ客死の旨を報し来る。内」(二二八オ)藤久寛より来書あり。高橋義彦へ果亭の幅小包にて返却す。小林堅三、大島井弁三、杉山重義来訪。種村宗八来る。坪井正五郎、露国ニ客死ニ付見舞之為西片町留守宅へ行き悔みを云ふ。帰路佐々木信綱を訪ふ、不在。十一時より落合別宅へ行く。夕刻高田弥一郎、宇田川重蔵、佐藤吉五郎を招飲。皆落合宅経営ニ与りたるもの」(二二八ウ)也。別宅ニ酒宴を開くはこれを以つて初めとす。夜に入り崖下之田より蛙声の盛ん

に起るを聞き灯燈を提けて夜景を賞す。実は此宅の夜景を見るもこれを以つて初めとす。落合宅ニ半日在る内杉山茂吉、日中来訪。晩間旗野美のり来訪あり。大工佐藤吉五郎ニ建築代金五十五円也払。尚門扉代外若<sup>(二一九オ)</sup>干を剩す。夜来雨あり。十時帰宅。

#### 卅日

雨。高橋義彦より来書あり。真島桂次郎より選挙資格の爲往年借り受けたる土地ニ関し云々申越しあり。土田亦二郎、新発田新聞の経営方法ニ付来訪、鱒を贈らる。余の意見を一、二時間説示してかへす。関屋親次、有樂座ニ文芸協会<sup>(二一九ウ)</sup>参加の件ニ付、金子馬治、協会の前途并ニ抱月、須磨処分の件ニ付来話。校友武田林一、一身上の件ニ付来訪。正午、病後の英堂と都鳥ニ午餐を共にし、去つて坪内逍遙を訪ふて文芸協会の前途并ニ会の組織変更、島村、松井処分の件等を話し、余、従来監督の処、協会のため理事となり一步を進めて力を致すことを諾し、薄暮<sup>(二二〇オ)</sup>帰宅。

#### 三十一日

晴。前島弥、畑正吉、校友宮地猛雄来訪。内藤久寛より来書あり。今日大掃除を行ふ。表具屋ニ托したる書簡卷三出来。高島屋呉服店ガウンの見本を齎らし来る。午後より児女と共に落合宅ニ到り家具を整<sup>(二二〇ウ)</sup>理す。植木屋弘、高田弥一郎立替共四十三円余払済。帰途四谷三河屋ニ飯してかへる。服部宇之吉より来書あり。在台灣和泉文三より行政整理之結果免職となりたる旨報あり。

#### 六月

##### 一日 日曜

晴。広田、菊屋来る。竹谷の幅外二、広田ニ托し今泉へ鑑定ニ廻す。高田学長を訪ふて二、三の要件を話して十一時登校。本日午後、学校之重なる寄付者六十名を招き、理工科の新設備を其覽ニ供し、恩賜館内に学長より諸般之報告をなし、茶菓を饗して四<sup>(二二二ウ)</sup>時頃退散す。此日、三井高保、近藤廉平、森村、根津等之外ニ山川博士、菊池男も来観あり。不在中、和泉文三親族二味来訪。信



平未亡人離縁の事ニ付、吉田東伍より来書あり。兒女三人落合宅へ行く。神山村土地（真島より借受自分名義となりたる分）整理之件ニ付、承諾書を真島居へ郵送す。土田亦次郎ニ（二三オ）書を發し、来る三日偕樂園ニ招く旨を通す。

## 二日

晴。武田林一、宮原正喬、本田信教来訪。宗家より来状あり。午後登校。武田一身上之件ニ付、杉崎藏之助ニ依頼状を發す。二、三の事を処す。高木を訪ふて紫泥之水滴を購ふ。今夜、日清生命保險会社ニ契約高二（二三ウ）千万円の祝宴ニ招かる。会場保險協會也。早稲田同人五十名出席、伯と学長と余、席上演説を為す。学校職員永田碩二郎の訃ニ接す。

## 三日

好晴。吉田東伍、宴曲披露会之件ニ付来話。山田清作、林和歌子来る。午後より登校。高田学長、金子馬治と文芸協會の近事ニ付長時間（二三オ）協議す。島村、松井須磨を退けたる後、粉々擾々たり。坪内去つて熱海ニ赴く。

種村と中学講義二期制度の事を協議し、四時より亀島町偕樂園ニ到り土田亦次郎、昆田文次郎を招飲、十時帰宅。夜来雨あり。

## 四日

晴。広田より慶喜之書簡を購ふ。（二三ウ）内藤久寛出京、鯛を贈らる。宮原正猷来訪、反物を贈らる。閑屋親次、文芸協會の件ニ付来話。肥田野畏三郎ニ書状を發す。ガウン、校旗等之件ニ付、高島屋の井上孝藏来る。半迂より近作を示さる。明治商業銀行より預ケ金勘定を報告し来る。（現在預ケ高五十九円余也）。在熱海坪内逍遙ニ書を投す。山崎直三より名家書簡二通贈（二四オ）らる。午時、英堂と湖畔ニ会す。下林貞雄ニ書を發す。夜に入り台湾和泉文三より来電あり。アリサン鉄道ニ就任と決し、帰国せぬ云々申来る。

## 五日

雨。吉田研究の宴曲披露の件ニ付大隈伯を訪問し、去つて吉田を訪ふて話す。登校事務を見る。東（二四ウ）儀を招き文芸協會の事を云々す。学長、種村と中学講義二期

制度の事を協定す。田代亮介より来書あり。田原栄、金藤幹来る。高田学長、島村抱月の件ニ付来訪、文芸協会の事を協議す。徳川頼倫侯より十二日午後晚餐会の案内状来る。

## 六日

「(二五才)

雨。賀田直治より和泉文三の件ニ付郵書来る。真島桂次郎より干鱒を贈らる。林縫之助之書到る。在熱海坪内逍遙より来書あり。抱月問題ニ付金子馬治来話。半迂も来る。越後の佐藤市衛来訪。亡弟遺児欣二之為め、亡弟保険金の内八百円也先年預り置き、爾来欣二学費其他之費用として追々支出、本月にて全く「(二五才) 尽き爾後の支出ニ付下林、鎌田と相談を要し、明後日余の方ニ相談会を催す書状を發す。午後より坪内宅にて幹事会を開らく。夕刻帰宅。金子、抱月ニ対し最後の交渉を遂けたるも終ニ不調。雨しきに降る。

## 七日

雨。熱海より坪内の書到る。萩野「(二六才) 左門の孫養子となりたる耐三来訪。種村来訪。日下部方へ使を遣はす。

内藤依頼之碑文揮毫成る。印刷会社の重役会ニ臨む。午後登校。坪内出先へ電報を發し帰京を促す。立原翠軒之書幅を購ふ。宗家より継志園碑陰文事実を取調べ返書あり。五時より日本俱樂部ニ於て野沢武之助、伊地知(イヂチ)の婦朝を「(二六才) 迎ふる同人会を開く。坪内より明日帰京之返電来る。

## 八日 日曜

雨霽。下林、鎌田を招き欣二の将来を協議す。内藤久寛、増子喜一郎、山田清作来話。午後より兒女同伴、落合別宅へ行く。坪内、金子ニ書を發す。外出中、坪内逍遙来訪。夜に入り逍遙を訪ふ。金子馬「(二七才) 治と共に文芸協会の近事と学校ニ関する問題を討議し、十二時ニ到り別る。坪内案外ニ平静也。

## 九日

晴。早朝より文芸協会問題ニ付、高田を訪ふ。坪内、金子も来会。前途之事ニ付、凝議多時を費す。坪内例之潔癖にて、「(二七才) 会長辞任を申出で議論沸騰、容易ニ決せず。午後二時ニ至り已むなく坪内之意ニ任す事となし、

直ニ決行準備を為す。それより協会ニ至る。協会と島村の間ニ学校方面之調停者あらはれ、島村と坪内の会見なり。種々の行かゝり上、直ニ決行出来兼ねる事と成り、夜十一時ニ至るまで極力逍遙之為」(二二八オ)め幹旋しかへる。島村の態度傲慢不遜、調停を欲すと雖とも、坪内の地歩は飽まで保たしめざる可らず。調停者力を尽すと雖とも、坪内之会長辞任は終ニ已む可らざる歟。(十二時、帰宅後就眠を得す起す。酒を呼び一瓶を敝死して後、此の記事を作る。)(二二八九ウ)

#### 十日

晴。斎藤正義、山田清作、橘静二来る。山田ニ日清印刷宛添書を与へ、同社へ遣はす。半途迄印刷せる坪内之近著脚本役行者之版を毀たんとて也。これは此頃の会の紛議ニ関し誤解を招く虞れあり、逍遙より依頼ニ付如此。

橘静二、文科の昨近之問題ニ付云々す。意」(二二九オ)見を陳し同人を学長方へ遣はす。十時より坪内を訪ふ。半途版を毀ちたる役行者脚本之稿本を記念にとて贈らる。金子馬治、其他の協会幹事と話す。一旦見合せと決したる

シーザー劇を名残狂言として予定通り行ふことに決す。去つて平山堂を訪ふて書画を弄し、二時上野の湖心亭ニ午餐を」(二二九ウ)した、め英堂と会し、帰途高木方ニ立寄帰宅。

#### 十一日

晴。服部宇之吉より星野翁祝賀会之件ニ付来書あり。北堂之書到る。隈本有尚来訪。古鏡及拓本を贈らる。小久江成一、丸善と英和辞書出版交渉の件ニ付来話。半迂、菊屋来る。午後、登校事」(二三〇オ)務を処す。学長同伴、坪内を訪ふて、協会の件ニ付長時間話す。矢来倶楽部ニ宴曲之会あり、行かす。十四日午前、帝国通信重役会の通知来る。大阪の砂川雄峻より文芸協会の近事ニ付来簡あり。午後小雨。

#### 十二日

曇。関屋親次、文芸協会の前」(二三〇ウ)途ニ付内話して去る。和泉姉ニみよ離縁ニ関する書面を送る。服部宇之吉ニ書を投す。午後、登校一、二の事を処し、平山堂ニ書画を觀、桃山式小屏風を購ふ。五時より図書館協会幹部

員徳川侯ニ招かれ晩餐の饗を受け、十五日総裁推戴式の準備ニ付諸般の打合を為す。昨今文芸協會の問題」(二三)を何人も留意しつゝ、ある折柄、会衆余を囲むて種々の質問を放ち、幾んど答弁ニ忙殺せらる。十六日実業学校評議員会の通知来る。内子歌舞伎座ニ行く。

### 十三日

晴。表具屋を招き幅三、四改装を托す。半迂、学校運動部の端」(二三)艇ニ刻する艇号の字を法帖より選択し来り示さる。萩野耐三、帰省ニ付来訪、萩野左門宛書を托す。橘静二、文科の件ニ付来話。平山堂ニ桃山屏風代十五円払済。蔭山義三郎、東京ウキークリー登刊ニ付贊助を求めに来る。諾しかへす。午後登校。高島屋を招き校旗、式服等之意匠を協議す。晩間、兄と共に水道町ニ落合」(二三)畑用の野菜苗数種を購入。在台湾和泉文三より来簡あり。

### 十四日

晴、後雨。八時より帝国通信社の重役会ニ臨み半期之決算并ニ総会提出案を議決す。午後登校。学長、幹事と共に

ニ来る十月大学三十年式典準備ニ付長時間ニ涉り協議し、晩間帰宅。不在」(二三)中、武田林一、八木淳一郎来訪。薄田貞敬の書ニ接す。半迂より端艇の刻字案を廻付し来る。文明協會当月分刊本配布。在清国巽李軒より来書あり。丁酉銀行へ差入八百円手形期限ニ付、更らに手形を増田義一へ廻はし、裏書をもとむ。武田林一、真島信城の書状到る。」(二三)オ

### 十五日 日曜

昨夜来之雨正午霽る。朝、永井如雲来訪。午後より上野精養軒ニ至る。本日、日本図書館協會之総裁推戴式を挙行す。先づ一時半より上田万年の講演あり。終つて式ニ移り太田副会長式辞を読み、余、推戴演説をなし、徳川侯答辞の朗読あり。終つて会長選挙の末太田を指名し、記念撮影をなして」(二三)宴会ニ移る。今日来会者九十余名。九時家ニ帰へる。

### 十六日

陰後雨。早朝、高田を訪ふて文芸協會々長辞任後の処分案を講す。十時より実業学校の評議員会ニ臨み、予算決

算之説明を受け、正午、登校金子と文芸協会の件を話し、出版部の事を処す。三(三四)時英堂と会す。帰路高木ニ立寄帰宅。桂湖村、増田義一より来書あり。終夜降雨。

#### 十七日

雨霽。本田信教、山田清作、吉田半迂来訪。新村出、内藤久寛ニ書を投す。丁酉銀行手形期限ニ付、切替之為小林堅三を遣す。坂口五峯来訪、午餐を共にして別る。午後、登校事(三四)務を見る。大阪の砂川雄峻、文芸協会の内情を報す。昆田文二郎、大口鯛ニ書を投す。三時より落合別宅ニ到り、新設の門扉、書斎の襖を検してかへる。大工吉五郎ニ書を投す。越後出身力士柏戸のために賛助会(伊勢ノ海会)を組織せんとて西脇、増田、坪谷等之名義にて賛成を促す書状到る。丁(三五)酉へ手形(本日付期限、八月十五日裏書増田義一、割引料十円五十六銭)八百円差入る。

#### 十八日

晴。五十嵐力より近著趣味の伝説を贈らる。種村、小久江交々出版部之件ニ付来話。吉田半迂艇号原稿を齎らし

来る。大工吉五郎、小崎恭人、滝沢兄弟来訪。登校、学报(三五)之編輯会ニ臨む。東儀来校ニ付文芸協会の将来ニ付話す。高島屋手代ニガウン、校旗の見積書を徴す。太田為三郎より来書あり。

#### 十九日

晴。山本利喜雄来訪。紀念録進行の件ニ付協議す。昆田文二郎来訪、古河家寄付額之事ニ関し云々の内談あり。小林堅三図書館之(三六)予算決算を協議して去る。午後登校。早稲田中学の評議員会ニ臨みて予算決算を見る。出版部ニ講義録編輯会を開き専門部栞并ニ中学二期制度の栞ニ付長時間協議す。

#### 廿日

好晴。大江乙亥門、関屋親次来る。関屋と文芸協会の前途を協議(三七)す。猪俣津南雄、山口健造の添書を携帯、学業の前途を云々す。三省より博物標本の件ニ付使来る。菊屋来り花を贈らる。山沢俊夫より五十嵐元敬の画幅を購ひ入る。登校事務を見る。内藤久寛より越後縮三反を贈らる。内藤ニ書を投す。高木を訪ふて二、三の

ものを購ふ。今川小路風月堂ニ飯してかへる。」(二三七オ)

## 二十一日

晴。坪内逍遙、文芸協会の跡仕末ニ付来訪。種村倒叙日本史索引之件ニ付来訪。落合ヘ衝立、小屏風外雜品、荷車にて遣す。登校事務を見る。真島信城、昆田文二郎ニ書を投す。落合別宅ニ行き、花壇を作る差図をなしてかへる。製本屋松元鶴吉、礼之為めに来る。」(二三七ウ) 宗家より来書あり、直ニ返書を發す。本日正午頃、飛行機屋上を掠めて去る。後ニ新聞号外にて国府台帰航途中墜落のよし。操縦者武田少尉、生死不明。

## 二十二日 日曜

雨。星野翁を訪ふて文稿出版之件を話し、又、継志園碑陰記の事実訂正を請ふて宗家名」(二三八オ) 義之反物を贈る。真島信城、末森智良より来信あり。羅振玉ニ内藤依頼之篆額揮毫謝礼として越後上布を小包ニ通送す。外ニ謝状を發す。午後、大学之応接室宴曲之研究会を催す。大隈伯外六十数名の来会あり。東儀鉄笛外宮内省楽人、夏秋、熊野詣、郢律、講諸礼四曲を試演す。席上東儀は

平安朝音楽」(二三八ウ) 今様、朗詠、催馬楽ニ就き比較説明をなし、楽人此等のものを演奏す。湯原音楽学校々長、田中正平の席上演説あり。薄暮散会す。今日、聖上より漢籍国字解御所望あり、忽々使を葉山離宮へ使はす。右ニ付、余より日高秩父ニ書面を差出す。土田亦次郎より来書あり。京都新村出ヘ書状を發す。東儀季」(三九九オ) 治、晩間文芸協会善後の件ニ付来訪。

## 廿三日

晴。今朝八時家を出て、今川小路高木方ニ落合用二、三の雜品を購ひ、風月堂ニアイスクリーム桶入を宗家ニ進上せんとて購ひ、右携帯新橋より汽車にて鶴見ニて下車、それより人力車にて生」(三九九ウ) 麦ニ於ける宗家の別邸を訪ふ。四、五年前此邸を訪ひし際は規模狭小、造作も未だ半出来の頃なりしが、大成の今日、入り見れば流石ニ富豪の別荘ニ恥ぢず如何にも壮大のもの也。茶室ニて多時主人と話す。此室は特に主人之意匠を凝らしたるものと見へ、質素の内ニ雅趣見へてめてたし。主人ニ伴はれて各室を見、終に」(四〇オ) 本座敷ニ伴はれ、午餐之饗

を受く。海上之眺望真ニ非凡也。大体此辺の別荘は唯た海を望むに止まるに、此の生麦の荘の前面には広大なる洲ありて半ばは田地、半ばは村落となり居り。而かも其の中間ニ河あり、其の屈曲の状極めて趣味あるに加へて、近頃は架橋さへあり一層の風致を添へ、それに帆船出入、風光」(二四〇ウ) 実に北斎、広重之絵を見るが如し。本座敷規模又大、壮快の情に堪へず。主人と対酌三時ニ至り辞して去る。帰路電車ニ乗るの便を感じ、品川行の電車に乗り、薩摩原ニ巢鴨行電車ニ移り更らに神保町にて江戸川行きに乗換へ夜に入り帰宅。不在中、肥田野畏三郎家族来訪、物を贈らる。」(二四一オ)

#### 廿四日

晴。土屋詮教、種村宗八、吉田半迂、小林堅三来る。皆な学校之事務ニ関す。関屋親次、文芸協会の善後ニ付来話。登校、学長と文芸協会善後の事を話し、上野精養軒ニ開会の教授会ニ臨み、引つゝき同し席ニ夏期教授講師慰労会を開く。伯以下百五十名出席、活動写真の余興。夜」(二四二ウ) ふけ十時過雨を衝て帰宅。

#### 廿五日 地久節

曇。小林堅三、図書館予算の件ニ付来る。九時より高田方ニ坪内と共に会し、長時間ニ涉り文芸協会の善後を議す。登校事務を処す。郷人河内平左衛門来訪。金藤幹、又来訪。夕刻より神田宝亭ニ図書館評議員会を開らき、」(二四二オ) 拡張案を決し、十時帰宅。

#### 廿六日

晴。薄田貞敬来話。肥田野梅桜姉妹、一身上之件ニ付来訪。梅ニ半古宛、桜ニ湯原元一宛書状を發す。菊屋来る。方形からもの菓子盆を購ふ。坪内逍遙より来書あり。図書館雑誌の材料として余の総裁推戴ニ於ける演説稿」(二四三ウ) を校して協会ニおく。午後、日清印刷会社の株主総会ニ臨む。原案之通り決す。配当尅割也。例のことく重役と共に日本橋やまとに於て宴会を開く。小田島彦太郎より来書、金融を依頼し来る。

#### 廿七日

晴。猪俣津南雄来訪。文明協会」(二四三オ) より発行之手形五百円ニ通裏書を為す。十時高田方ニ行く。東儀、土肥

を招き文芸協会の善後ニ付協議し正午ニ至る。午後二時露都ニ客死せる坪井正五郎の葬儀ニ臨む。式場伝通院也。日清印刷会社より相談役報酬三百円受領。井上孝蔵、安田勲来訪。高木方へ金式十五円也買物代金の内払入。小田島へ金三十円也一時融通」(四三ウ)す。今夜清風亭ニ校友会幹事を開く。出席、式典ニ対する諸般の件を協議す。神田、日本橋辺ニ家用具数点購ふてかへる。日清印刷会社より当期配当金壹割、即ち百株ニ付七十五円を受領す。服部宇之吉より来書あり。星野翁祝賀会之事ニ関す。

廿八日

「(四四ウ)

晴。時々細雨あり。神楽江巻石来訪。高島屋より井上孝蔵ガウン并ニテントの見積を持参云々す。九時より登校、学長、幹事と式典ニ関する経費の取調を為す。其額壹万六千五百円ニ上る。午後、理工科の顧問会を開く。三時、学校を辞して坪内逍遙を訪ふて協会の善後策を講す。逍遙、又々心変り」(四四ウ)の処あり。多時談話、漸く取纏めをつけてかへる。石沢兵吾、脳溢血症ニ陥りたりと

の報あり。不取敢小林堅三を見舞ニ遣る。星野翁ニ書を投す。牧野謙次郎ニ近衛忠房の書簡二巻を貸付す。山沢俊夫へ幅代十七円五十銭為持遣す。小田島彦太郎、高橋義彦より来書あり。高橋太華、近かく」(四五ウ)清国より齋らし帰へりたる古画、土中品を廿九日上野精養軒ニ陳列して同人に示すの挙あり。幸田露伴、横山大観等より余にも案内状を寄せ来る。夜来暴風起る。

廿九日 日曜

晴。昨日来特ニ炎熱を覚ふ。今朝、三枝守富を訪ふて理事會ニ先」(四五ウ)たち高田学長ニ慰勞金五千円を贈るの提案を為さんことを告げ、其の同意を得て九時より学校ニ理事会監査会の合同会を開らき、予算決算其他重要な事を協議し午後ニ至り、余より学長へ之慰勞金問題を提出し、其の同意を得。今日之問題中には、余の学校ニ対する功勞を表彰するため肖像油」(四六ウ)絵を十月式典の時ニ作り、学校ニ永久伝ふる件并ニ余之基金募集委員長たるに對し、慰勞金の件等も決す。散会後大隈伯を訪ふて理事会ニ学長慰勞金を決したる旨を報告してかへ



る。留主中、佐藤政太郎（真島信城紹介にて）、朝倉亀三、山本利喜雄、石田真一郎等交々来訪。菊屋、佐藤吉五郎、又不」（二四六ウ）在中来る。今夜、帝国劇場ニ児等同伴、文芸協会のシーザー劇を観る。夜深ふして帰宅。在越後へ暑中見舞として例年之通り金十円送る。

### 三十日

晴。今朝、在生麦宗家主人ニ書を投して来月三、四両日の内落合別宅へ来臨をもとむ。電話」（二四七オ）にて辻川武之進ニ当日宗家主人迎への為生麦へ行かんことをもとむ。高木方を訪ふ。得る所なし。池之端琳琅閣ニ高麗藏経零本一函を購ふ。前分未済勘定八円払済。湖畔ニ英堂と会す。金百円交付。朝来歯痛を覚へ終日不愉快也。晩間按摩を招き平臥す。近かく落合ニ宗家主人を招飲せんとしてランブ」（二四七ウ）（坐敷用）を闕く、頃日坊間に之れを求むれとも幾んと得る能はず。初めて電灯瓦斯の世界は、全くランブを圧倒し去りたるニ氣付きたる位。已むなく知人の家ニ就き其の不用となりたるもの三基（壺対箱入）を貰ひ受けてかへる。今夜、内子帝劇ニ行く。表

具屋より文晁粉本幅出来ニ付と、け来る。勘定」（二四八オ）の内へ十円払入。」（二四八ウ）